

「私と世界がつながるまち 刈谷」をめざして

刈谷市国際化・多文化共生推進計画 第1期報告書



平成27年3月

● 目 次 ●

第1章 本報告書の概要	1
① 本報告書の趣旨	1
② 本報告書の構成	2
③ 本報告書の策定方法	2
第2章 本市の外国人市民の状況	3
① 外国人市民の居住状況と特性	3
② 外国人市民の永住意向とその影響	6
第3章 計画第1期の取り組み施策の実績	8
① 点検方法	8
② 「地域」の取り組み施策の実績	10
③ 「地域」の取り組み施策の今後の課題	15
④ 「教育の場」の取り組み施策の実績	16
⑤ 「教育の場」の取り組み施策の今後の課題	22
⑥ 「公共施設・機会」の取り組み施策の実績	23
⑦ 「公共施設・機会」の取り組み施策の今後の課題	33
⑧ 「企業・職場」の取り組み施策の実績	35
⑨ 「企業・職場」の取り組み施策の今後の課題	38
⑩ 「地球規模」の取り組み施策の実績	39
⑪ 「地球規模」の取り組み施策の今後の課題	45
第4章 第1期重点協働プロジェクトの総括	46
① 点検方法	46
② モデル地域・学区プロジェクトの総括	46
③ 学校E S Dプロジェクトの総括	50
④ 地球市民拠点プロジェクトの総括	54
第5章 第2期重点協働プロジェクト	58
① 第2期重点協働プロジェクトの方向性	58
② 第2期重点協働プロジェクトの全体像	59
③ A. 共生の地域・学区プロジェクト	60
④ B. 多文化対応プロジェクト	62
⑤ C. E S D実践・推進プロジェクト	64
資 料	67
① 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会	67
② 第2期に重点的に実施すべきと考える取り組み施策 投票結果	69

第1章

本報告書の概要

どのような内容なのか

1 本報告書の趣旨

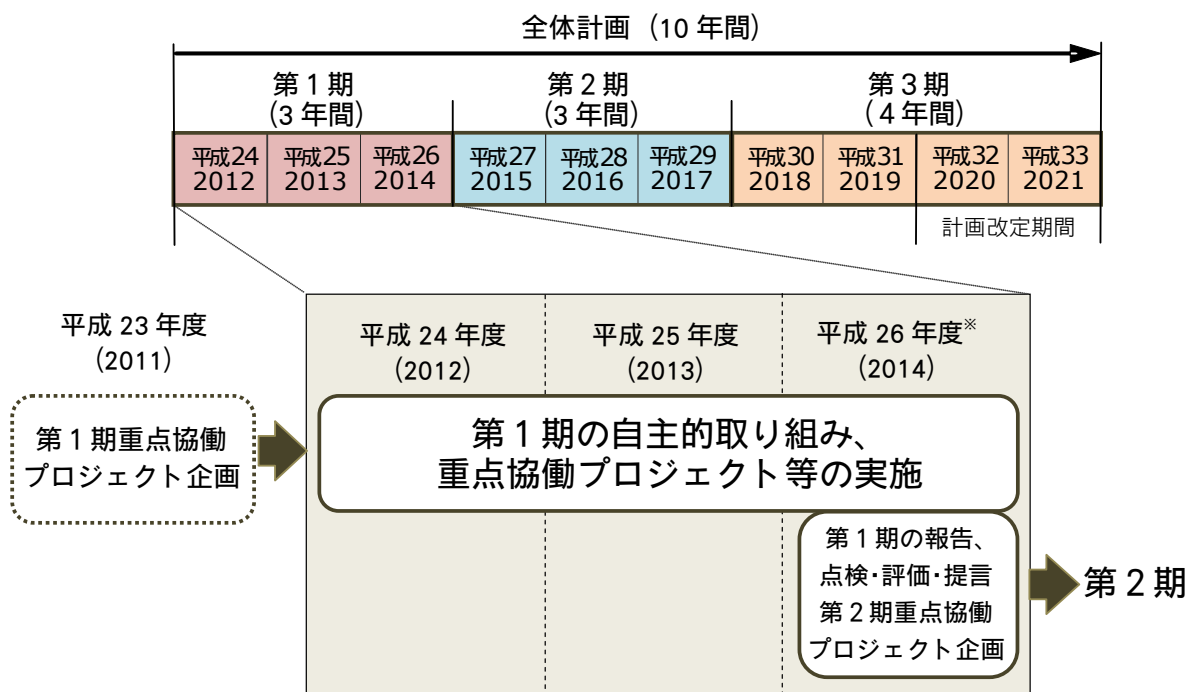
本市は、平成24年（2012年）3月に『刈谷市国際化・多文化共生推進計画』（以下「計画」という。）を策定し、右記の4つの目的を実現するために、地域、教育の場、公共施設・機会、企業・職場、地球規模の5つの場面を設定し、関係主体と協働して進める「重点協働プロジェクト」および各主体による自主的な事業により様々な取り組みを行ってきました。

● 国際化・多文化共生推進の4つの目的 ●

- ① 多様性を成長につなげる
- ② 地球規模の共生をすすめる
- ③ すべての人の人権をまもる
- ④ 共存・協働のまちをつくる

本報告書は、計画第1期（平成24～26年度）の取り組み状況を点検・評価し、第2期（平成27～29年度）に向けた取り組みの方向を定めるものとしてとりまとめました。とりわけ、関係主体と協働して進める「重点協働プロジェクト」については、第1期の成果と課題をふりかえり、第2期に取り組むべき「重点協働プロジェクト」を関係主体と共に検討し、定めています。

● 3年サイクルの進行管理 ●



2 本報告書の構成

本報告書の構成は、以下のとおりです。

- 第1章 本報告書の概要
- 第2章 本市の外国人市民の状況
- 第3章 計画の取り組み施策・内容の実績
- 第4章 第1期重点協働プロジェクトの総括
- 第5章 第2期重点協働プロジェクト
- 資 編 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会名簿
推進委員会および市民等の取り組み施策投票結果

3 本報告書の策定方法

本報告書は、計画第5章「②各期の3年目の点検・評価と次期への反映」の考え方にに基づき、次のとおり策定しました。

- ① 外国人市民に関する統計などの資料調査により、最新の外国人市民の居住状況をまとめる。
- ② 第1期重点協働プロジェクトの各年度の取り組み内容、その成果と課題を基に、総括をまとめる。
- ③ 計画第4章の取り組み施策・内容の第1期実績をまとめる。
- ④ 第1期の重点協働プロジェクトおよび取り組み内容の実績を踏まえ、関係主体で構成した刈谷市国際化・多文化共生推進委員会（以下「推進委員会」という）で、第2期に進めるべき取り組み施策について協議する。
- ⑤ 併せて、第1期重点協働プロジェクトの実施に関わる市民等に、第2期に進めるべき取り組み施策について意見を聴く。
- ⑥ 推進委員会および市民等の意見を基に作成した第2期重点協働プロジェクト（案）を推進委員会で協議後、決定する。



▲ 推進委員会の様子

第2章

本市の外国人市民の状況

本市の外国人市民の居住特性はどうか

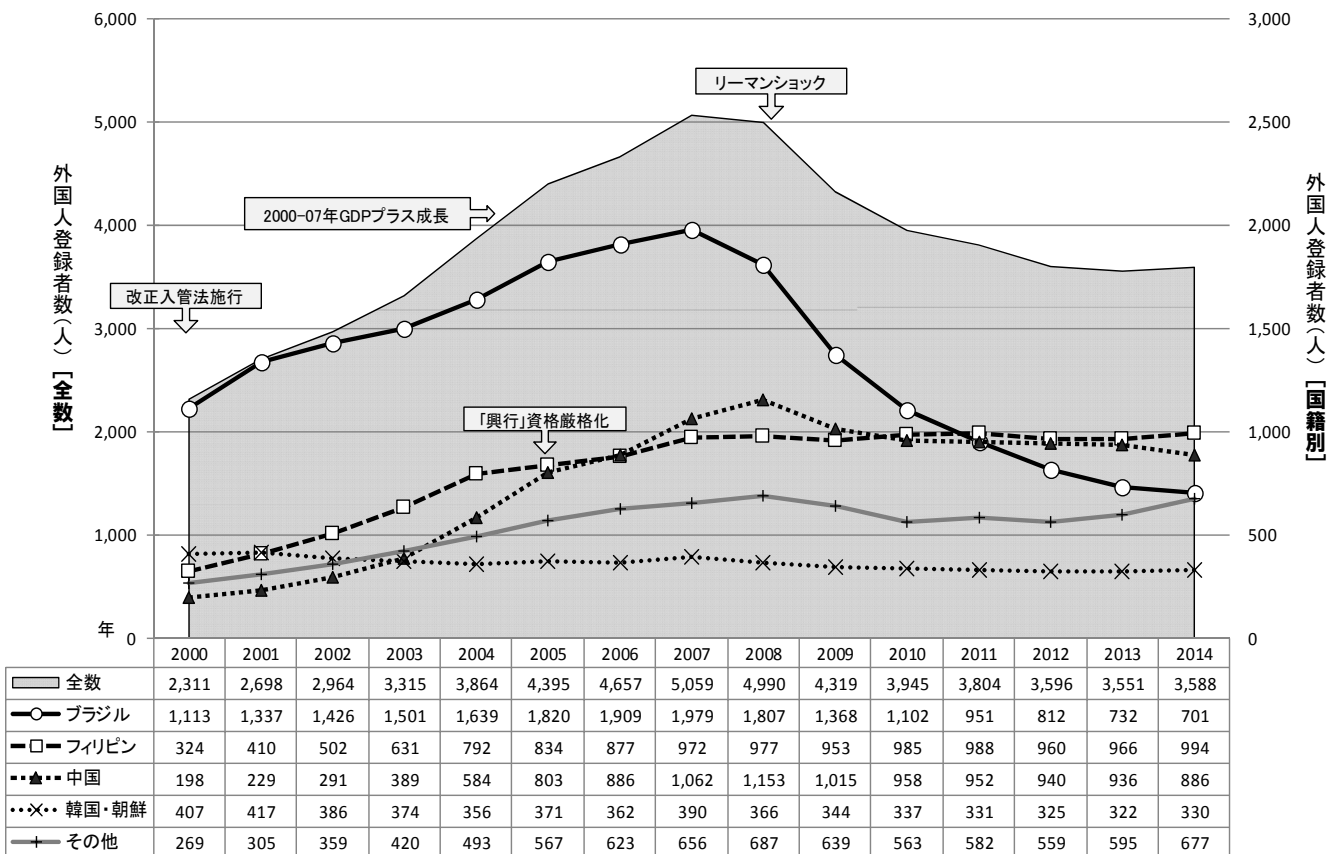
1 外国人市民の居住状況と特性

① 外国人市民人口の推移

本市の外国人市民人口は、2000年以降日本における経済成長とともに増加し、2007年には5,000人を超えましたが、リーマンショック以降、5年間で1,500人近く減少しました。しかし2012年以降は、ほぼ横ばいとなっています。

主要国籍別で近年5年間の傾向をみると、ブラジル、中国、韓国・朝鮮は減少傾向がみられるものの、フィリピン、その他では、横ばいから増加傾向がみられます。

図1:本市の主要国籍別の外国人市民人口の推移



(各年 10月1日現在、刈谷市調べ)

② 愛知県内市町村との比較による地域特性

本市の外国人比率は2.44%であり、全国平均よりは0.8ポイント高く、愛知県平均よりは0.2ポイント低い状況にあります。愛知県内市町村と比較すると、県内57市町村の中で、本市は12番目に外国人が多く、外国人比率では19位となっています。

国籍別の特性をみると、本市はフィリピンが26.8%と最も多く、次いで中国25.0%、ブラジル21.3%などとなっており、全国平均、愛知県平均とは異なります。フィリピン人について愛知県内市町村で比較すると、人数は8位、比率は4位と、フィリピン人が多い都市といえます。

表1:本市の主要国籍別外国人市民人口と愛知県・全国との比較

国籍	刈谷市(人口)	刈谷市(割合)	愛知県(割合)	全国(割合)
フィリピン	1,005人	26.8% ①	13.9%	10.1%
中国	938人	25.0% ②	23.6%	31.4%
ブラジル	798人	21.3% ③	24.6%	8.8%
韓国・朝鮮	355人	9.5% ④	18.5%	25.2%
その他	650人	17.4%	19.4%	24.5%
合計(人)	3,746人		約19.8万人	約207万人
総人口比	2.44%		2.66%	1.62%

注:2013年12月末現在、法務省調べ

表2:県内の外国人市民及びフィリピン人が多い上位3都市と本市の順位

順位	外国人総数		外国人比率		フィリピン人数		フィリピン人比率	
1位	名古屋市	66,289人	知立市	6.18%	名古屋市	7,409人	豊山町	1.36%
2位	豊橋市	14,413人	岩倉市	5.06%	豊橋市	2,209人	蒲郡市	1.06%
3位	豊田市	13,987人	高浜市	5.23%	岡崎市	1,511人	安城市	0.80%
刈谷市	12位	3,746人	19位	2.54%	8位	1,005人	4位	0.68%

注:2013年12月末現在、法務省調べ。各比率は総人口に対するもの。

③ 市内における居住特性

中学校区別で外国人市民比率をみると、1.9%~3.2%の範囲、外国人が多い上位10町でみても1.5%~4.1%というように、本市は、外国人市民がある程度分散して住んでいることが特徴の「外国人散住都市」です。

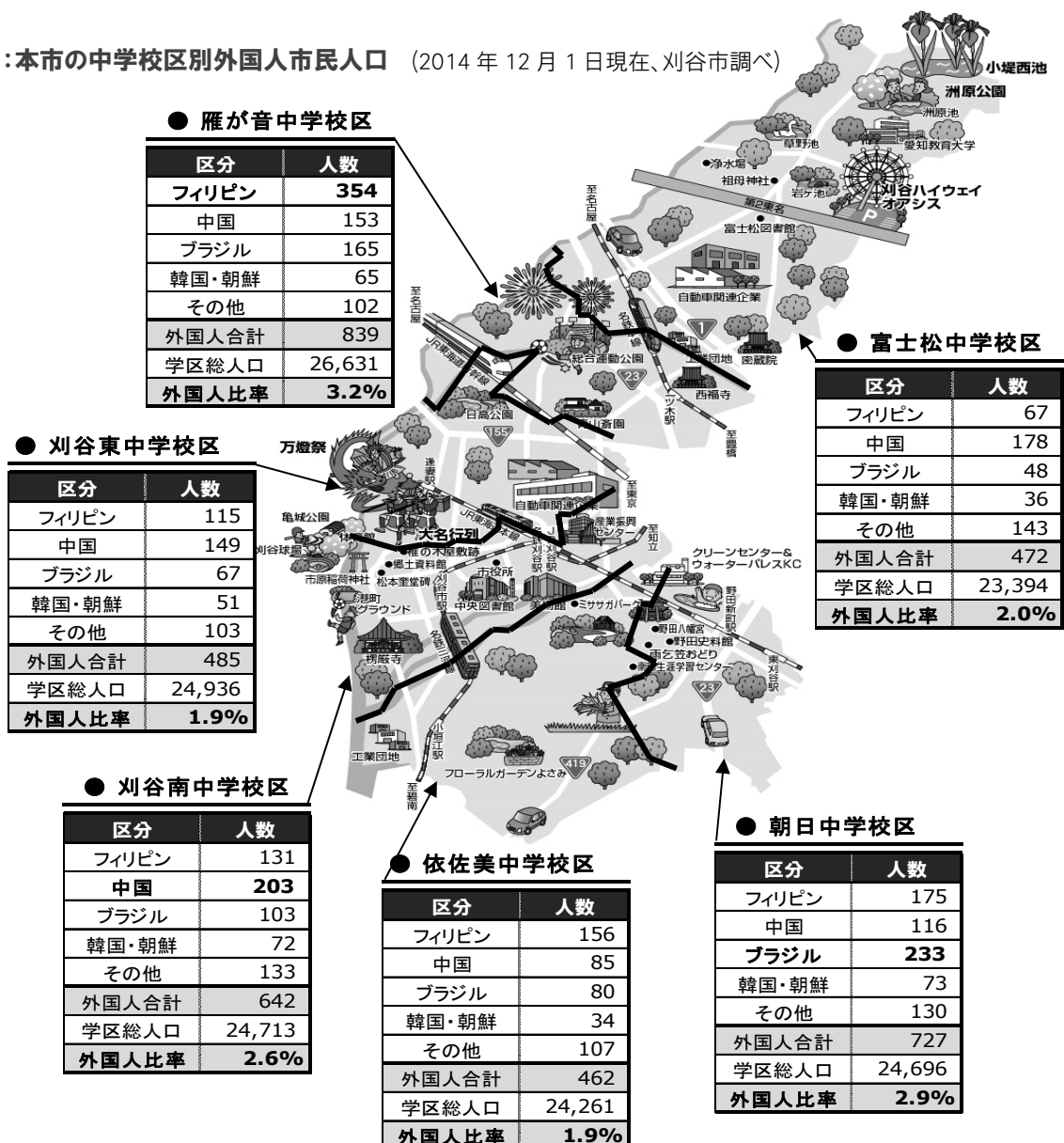
その中でも、外国人比率が比較的高い中学校区は、雁が音中学校区3.2%、朝日中学校区2.9%となっており、国籍別にみると、雁が音中学校区はフィリピン人、朝日中学校区はブラジル人が比較的多く住んでいることがわかります。

表3:本市の外国人市民が多い上位20町

順位	中学校区	町名	町人口	外国人数	外国人比率
1	朝日	野田町	10,603	340	3.2%
2	雁が音	一ツ木町	10,500	338	3.2%
3	依佐美	小垣江町	12,892	279	2.2%
4	雁が音	築地町	5,819	222	3.8%
5	富士松	井ヶ谷町	5,565	123	2.2%
6	雁が音	恩田町	2,994	122	4.1%
7	富士松	東境町	7,698	118	1.5%
8	朝日	板倉町	3,278	104	3.2%
9	朝日	東刈谷町	3,395	89	2.6%
10	雁が音	泉田町	5,523	82	1.5%

(2014年12月1日現在、刈谷市調べ)

図2:本市の中学校区別外国人市民人口 (2014年12月1日現在、刈谷市調べ)



2 外国人市民の永住意向とその影響

① 永住化の傾向と外国人相談内容

本市の外国人市民の在留資格をみると、フィリピン人、ブラジル人では「永住者」がそれぞれ55.7%、71.1%と最も多くなっています。4年前はそれぞれ44.7%、58.4%であったことからみると、より「永住化」の流れになっているといえます。

中国人は、「永住者」26.5%、「技術・技能・人文知識等」21.3%、「研修・技能実習等」24.1%と、留学、就労、研修などいくつかの背景で居住しています。その他は、ベトナム、インドネシアなどアジアからの研修・技能実習生が比較的多く占めるようになってきています。

表4:本市における在留資格別主要国籍別の外国人市民

(2014年12月1日現在、刈谷市調べ)

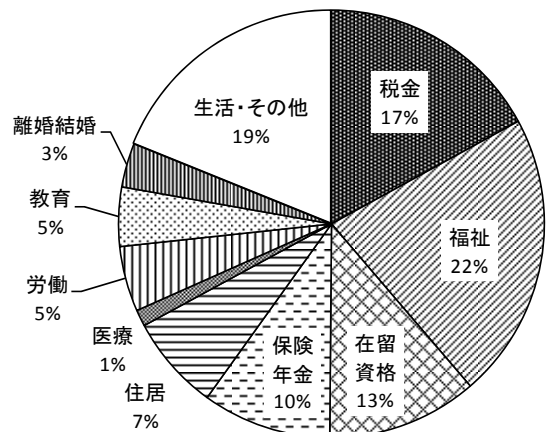
上段:人数 下段:割合	永住者	定住者	日本人の 配偶者等	永住者の 配偶者等	家族滞在	技術・技能・ 人文知識等	研修・ 技能実習等	留学	企業内 転勤	その他	合計
全体	1,465 40.4%	433 11.9%	216 6.0%	82 2.3%	210 5.8%	331 9.1%	441 12.2%	72 2.0%	61 1.7%	311 8.6%	3,627 100.0%
フィリピン	556 55.7%	228 22.8%	73 7.3%	50 5.0%	2 0.2%	14 1.4%	71 7.1%	- 0.0%	2 0.2%	3 0.3%	998 100.0%
中国	234 26.5%	16 1.8%	46 5.2%	9 1.0%	110 12.4%	188 21.3%	213 24.1%	34 3.8%	31 3.5%	3 0.3%	884 100.0%
ブラジル	495 71.1%	141 20.3%	42 6.0%	13 1.9%	2 0.3%	- 0.0%	- 0.0%	1 0.1%	2 0.2%	- 0.0%	696 100.0%
韓国・朝鮮	25 7.6%	1 0.1%	11 3.3%	1 0.1%	11 3.3%	12 3.6%	- 0.0%	4 1.2%	2 0.2%	264 79.8%	331 100.0%
その他	155 21.6%	47 6.5%	44 6.1%	9 1.3%	85 11.8%	117 16.3%	157 21.9%	33 4.6%	24 2.4%	41 5.7%	718 100.0%

外国人市民の永住化に伴い、生活相談の件数は7,405件となっており、4年前の5,434件より2,000件程度増えています。また、相談種別も福祉が22%と4年前の14%から大きく増えており、永住化の影響が生活相談にも現れてきているといえます。

表5:本市の外国人生活相談の種別件数

種別	相談内容	件数
税金	納税、所得証明申請等	1,260
福祉	乳幼児保育関係・児童手当等	1,608
在留資格	外国人登録関係	844
保険年金	保険加入	723
住居	入居申請・相隣関係等	533
医療	病院・予防接種関係	93
労働	職探し・内職探し問題	367
教育	学校・塾・幼稚園	332
離婚結婚	男女問題等	247
生活・その他	印鑑登録・ゴミ問題・翻訳・ビザ	1,398
合計		7,405

図3:本市の外国人生活相談の種別割合

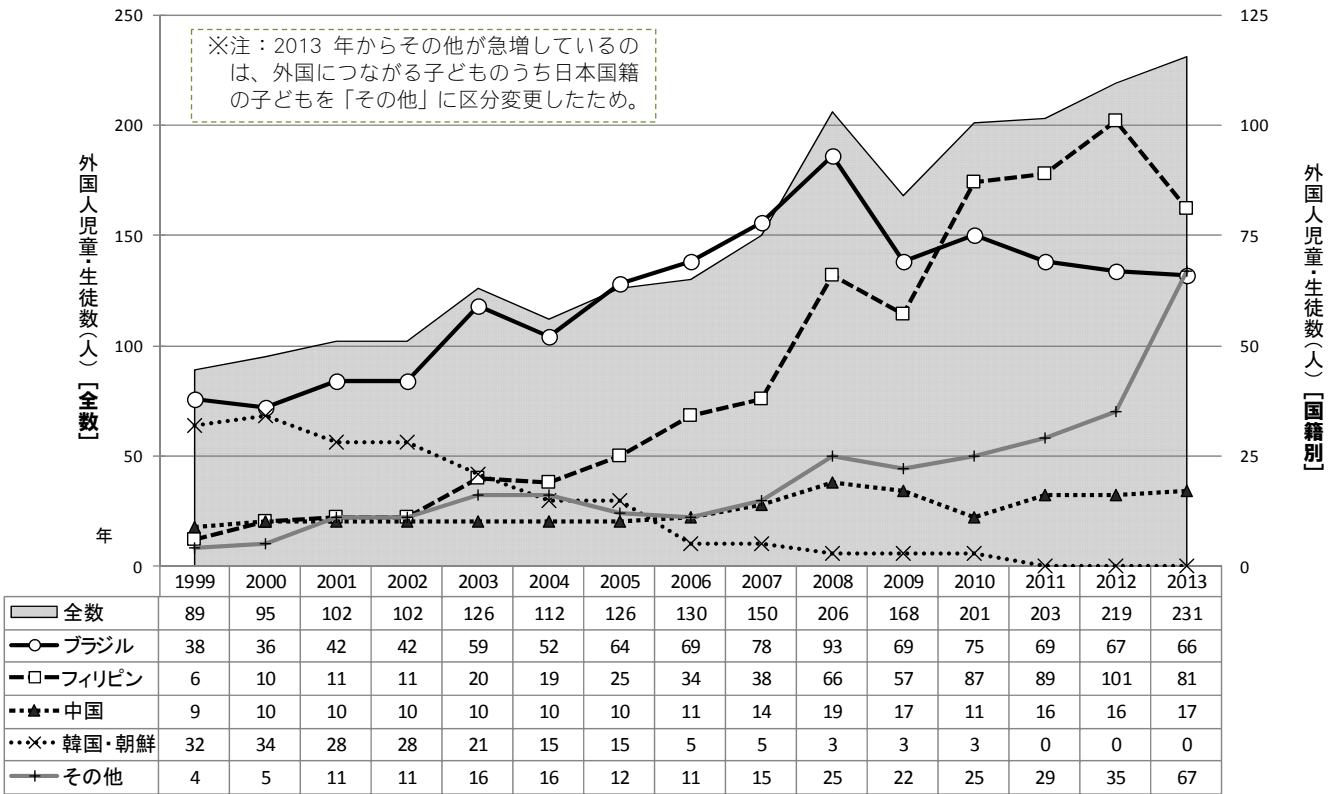


(2013年度実績、刈谷市調べ)

② 外国人市民の子どもの状況

外国人市民の永住化に伴い、日本で子どもを産み育てる外国人市民も増え、外国につながる子どもの数が増えてきています。外国人児童・生徒数でみると、1999年の89人に対して2013年は231人と2.6倍に増えていきます。国籍別では2010年以降フィリピンが最多となっています。

図4:本市における外国人児童・生徒数の推移 (各年5月1日現在、刈谷市調べ)



外国人児童・生徒数を学校別でみると、小学校では、かりがね小学校が62人と飛び抜けて多く、次いで朝日小学校29人となっており、中学校もその流れで雁が音中学校が多くなっています。

小・中学校で語学指導が必要な外国につながる子どもは、中国は少ないものの他の国籍では5割以上となっており、日本国籍の子どもでも多くが、語学指導が必要な状況にあります。

表7:国籍別語学指導の必要性

国籍	合計	学校内訳		語学必要
		小学	中学	
フィリピン	79	52	27	58
ブラジル	64	43	21	37
中国	15	9	6	4
ベトナム	6	4	2	3
ペルー	5	4	1	4
日本	46	42	4	34
その他	8	7	1	4
計	223	161	62	144

※その他…インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、アルゼンチン、タンザニア、イギリス

表6:学校別の外国人児童・生徒数

小学校名	在籍	語学必要	中学校名	在籍	語学必要
富士北小	5	2	富士松中	2	2
富士東小	2	1			
富士松南小	3	2			
かりがね小	62	61	雁が音中	30	24
平成小	6	3			
日高小	6	0	刈谷東中	5	2
小高原小	5	1			
亀城小	6	6	刈谷南中	5	2
住吉小	12	0			
衣浦小	6	3			
双葉小	1	1	依佐美中	5	4
小垣江小	4	2			
小垣江東小	5	1			
東刈谷小	9	8	朝日中	15	6
朝日小	29	13			
小学校計	161	104	中学校計	62	40
小・中学校合計(在籍→語学必要)				223	144

(2013年12月1日現在、刈谷市調べ)

第3章

計画第1期の取り組み施策の実績




第1期にはどんな取り組みを進めてきたか。

1 点検方法

次ページに示した計画の「5つの場面－34の取り組み施策」ごとに、第1期に実施した内容（事業名、取り組み状況説明）、その実績等のデータをまとめました。なお、事業名の番号に、四角枠を付したものは、第1期に新規に始まった事業です。

また、取り組み施策の達成度を3段階に区分し、下表の基準で、取り組み施策名の右隣に3種の足マークを付けました。

取り組み施策の達成度の評価基準

達成度	足マーク	基準の考え方
高		取り組み施策に対して内容・方向的に十分行われているもの。 必ずしも量的質的に十分とは限らない。 この方向で進めていけば目標に到達できると考えるもの。
中		取り組み施策に対して内容・方向的に一部行われているもの。 目標到達まで、まだ実施すべき施策があると考えられるもの。
低・不明		取り組み施策が、ほとんど行われていないもの。 または、各場での取り組みが不明であるもの。 目標到達のためには、実態調査や新規施策の実施が必要。

最後に、取り組み施策の中に掲げられている取り組み内容のうち実施できなかったものを明示しつつ、取り組み施策に対する今後の課題を挙げました。

場面ごとの取り組み施策一覧

[場面]

[取り組み施策]

対象 (目 外 全 他) *

地域	1 地域に交流する場・機会をつくる (外 日)	4 互いの文化に出会いまなぶ機会をつくる (日 外)
	2 地域の情報を共有する (外 日)	5 地域に相談できる人をつくる (外)
	3 地域の活動を共にすすめる (外 日)	6 あいさつしあえるようにする (日 外)
教育の場	1 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる (全)	4 子どもの保護者をサポートする (外)
	2 子どもの学校生活をサポートする (外)	5 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる (全)
	3 子ども同士が、認めあえるようにする (外 日)	6 地域社会で子どもをサポートする (外 日)
公共施設・機会	1 公共サービスの外国人市民対応化をすすめる (外)	7 日本語学習をすすめる (外)
	2 国際化・多文化共生の拠点をつくり、最大限に活かす (全)	8 外国人市民の互助体制をつくる (外)
	3 外国人向け情報・サービスを充実させる (外)	9 日本や刈谷市の文化等を知る機会をつくる (外)
	4 防災と災害時のサポートをすすめる (外)	10 外国人市民への偏見・差別をなくす (日)
	5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる (外 日)	11 外国人も住みやすいまちをつくり、アピールする (外)
	6 様々な国の人や文化と出会う場・機会をつくる (日)	
企業・職場	1 企業の国際化・多文化共生の社会的貢献をすすめる (全 他)	4 外国人市民の安定した就業をサポートする (外)
	2 外国人社員に対するサポートを充実させる (外)	5 多様性を活かした人権尊重の職場づくりをすすめる (外 日)
	3 働く人が地域や世界につながる機会をつくる (全)	
地球規模	1 世界の状況や課題について知る機会をつくる (全)	4 市民が身近にできる国際協力を広める (全)
	2 人どうしの国際交流をすすめる (全)	5 学び高めあう都市間交流をすすめる (他)
	3 地球市民意識を育てる機会をつくる (全)	6 市や企業による国際協力をすすめる (他)

* 対象：外…外国人市民、日…日本人市民、全…すべての市民、他…その他。詳細はP.17参照。

2 「地域」の取り組み施策の実績

No.1 地域に交流する場・機会をつくる

外日



「地域」のビジョン実現のためには、まず日本人市民と外国人市民が「知りあう」ことが大切です。しかし、日本人市民の77%は、外国人市民と関わりがなく、外国人市民の友人・知人がいるという人も9%に過ぎません。一方、外国人市民の75%、日本人市民の52%が、双方と交流をしたいと望んでいます。こうした状況やニーズを踏まえ、地域において「知りあう」ために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市民館、公園など既存の地域の場で出会い、おしゃべりする機会をつくる
- ② レクリエーション、スポーツ、食事会などでふれあう機会をつくる：■
- ③ 子どもを介し、家族ぐるみで遊んだり、交流したりする機会をつくる：■
- ④ 外国人市民のコミュニティーに日本人市民が参加する機会をつくる
- ⑤ 「まちの縁側」など誰でも気軽に集まれる場をつくる



第1期に実施した内容	実績等データ
1. 3大国籍別サロン H.25…① ◇アンケートで連絡先を記入した外国人に声をかけ、フィリピン、中国、ブラジル別に通訳付きで、プロジェクトメンバーとともに談話する機会をつくり、出会いとニーズ把握を行った。	◇実施回数=3回 ◇外国人参加者数=19人 ◇日本人参加者数=12人 (事務局除く、以下同じ)
2. ワールド持ち寄りパーティーH.25、フィリピンイベント H.26…①② ◇プロジェクトメンバーによる企画により、市民館で、外国人と日本人がふれあう機会(事前説明・交流会、持ち寄りによる食事会、フィリピン料理教室およびフィリピンパーティー)をつくり、交流した。	◇実施回数=3回 ◇外国人参加者数=67人 ◇日本人参加者数=79人 ◇イベント満足度=99%
3. 多文化共生コミュニティガーデンの整備 H.25-26…⑤ ◇勉強会や検討会を経て、愛知県国際交流協会、刈谷市、地域住民の協働で、多様な国籍の人々が日頃から花や農作物づくりを通してコミュニケーションをはかる場「ワールド・スマイル・ガーデン(略称ワールデン)」を、一ツ木町内に整備した。	◇整備面積=553m ² ◇合同作業=月1回程度(H.26～) (花組、畑組、広場組)
4. ワールデンにおける収穫祭 H.26…② ◇ワールデンを知ってもらい、交流するきっかけを作るために、収穫体験や収穫物で作った料理を楽しむなど「収穫祭」を夏、秋2回開催した。	◇実施回数=2回 ◇外国人参加者数=57人 ◇日本人参加者数=107人
5. 新春蹴り初めイベント(サッカー、餅つき)H.26…①②③ ◇H.26 年度2回目のプロジェクトイベントとして、スポーツと日本文化を介した交流を実施した。	◇実施回数=1回 ◇外国人参加者数=20人 ◇日本人参加者数=30人

No.2 地域の情報を共有する

外日



地域との関わりを持つためには、地域についての情報を共有することが必要です。特に、外国人市民は、ある程度の日本語会話ができて、読み書きを苦手とする場合が多いことから、多言語あるいはやさしい日本語による情報の提供が求められています。一方、情報発信者の1つである地域団体は、地域のどこにどの国の人が住んでいるかわからないことを課題に挙げています。こうした状況を踏まえ、地域の情報の共有を図るために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域の行事やルールを伝える新聞やリーフレットなどの媒体をつくる
- ② 外国人市民のニーズに合わせ、多言語化、日本語ルビ化して提供する：■
- ③ 外国人市民から情報を発信する機会をつくる
- ④ 外国人市民の居住状況を、地域レベルで把握・共有する：■



第1期に実施した内容	実績等データ
1. モデル地域でのプロジェクトのかわら版 H.25-26…① ◇ワールド持ち寄りパーティー、フィリピンイベント、ワールド・スマイル・ガーデン、各プロジェクトの活動について広く知らせる KARIYA GLOBAL LETTER を発行し、全戸配布した。	◇かわら版発行数=3回
2. ワールド・スマイル・ガーデンの Facebook ページと講座 H.26…① ◇ワールド・スマイル・ガーデンの活動の様子を伝える Facebook ページを立ち上げた。また、住民が自ら発信できるように、SNS講座を開催した。	◇Facebook ページの読者数=69名 ◇SNS講座参加者数=9人
3. イベント案内などの多言語化・日本語ルビ化 H.24-26…② ◇取り組み施策No.1で実施したイベントの案内および下記アンケートは、すべて多言語化、日本語ルビ化して配布した。また、上述かわら版のうちワールド・スマイル・ガーデン特集版については、4か国語(フィリピン語、ポルトガル語、中国語、英語)に翻訳した。	◇イベント案内多言語化率=100% ◇翻訳言語数=3か国 (フィリピン語、ポルトガル語、中国語)
4. 一ツ木地区外国人向け防災講座 H.25…② ◇防災に関する知識や地域ルールを外国人に伝えるため、刈谷市国際交流協会と刈谷市危機管理課との共催事業である「外国人向け防災講座」の出張版を一ツ木市民館で、自主防災会や防災ボランティアなどの協力のもと、多言語の通訳を付けて開催した。	◇実施回数=1回 ◇外国人参加者数=47人 ◇日本人参加者数=8人
5. 一ツ木町外国人アンケート調査 H.24…③④ ◇一ツ木町の16歳以上のすべての外国人にアンケートを行い、以下の外国人の考えを整理して、プロジェクトメンバーや一ツ木町民に伝えた。 ※回答した多くの外国人は、現状では日本人との交流は一部に限られているが、今後はもっと交流したり、コミュニティに貢献したりしたいと思っている。 ◇アンケートで情報提供希望者に連絡先を聞くことで、外国人との直接連絡方法を一定数確保した。	◇実施回数=1回 ◇日本人との交流意向=66% ◇交流に参加するうえでの障害…「チラシなど日本語で書かれた文章が読めないこと」=56% 等

No.3 地域の活動を共にすすめる

外日



地域における共生のためには、日本人市民と外国人市民との関係に関わらず、そこに住む人同士のつながりと信頼関係をつくる必要があります。そうした関係づくりのためには、地域における様々な活動を共にすすめることが大切です。また、外国人市民は、地域団体への加入率は低いものの、その半数以上が社会に貢献したいという気持ちを持っています。こうした状況を踏まえ、地域の活動を共にすすめるために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 清掃・祭り・子ども会など既存の自治活動への参加を多方面から呼びかける
- ② 外国人市民を交え、新たな地域貢献活動を共に創り出す：■
- ③ 外国人市民に地域の役職を担ってもらうなど「参加から参画」をすすめる
- ④ 地域をよくするために対話する場を設ける：■



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 3大国籍別サロン H.25<再掲>…①④</p> <p>◇サロンのプログラムとして、「計画の地域ビジョンを実現するために、一ツ木コミュニティでどんなことをしたらよいか」について話し合った。また、盆踊りなどの自治活動の様子のアルバムを見せて参加を呼びかけた。</p>	<p>◇実施回数=3回</p> <p>◇外国人参加人数=19人</p>
<p>2. 一ツ木多文化共生プロジェクト会議 H.25-26…②③</p> <p>◇一ツ木地区で新たに多文化共生を進める組織として、地域住民による「一ツ木多文化共生プロジェクト会議」を立ち上げ、その中に外国人も入ってもらい話し合いを行った。</p>	<p>◇実施回数=14回(H25-26)</p> <p>◇外国人参加人数</p> <p>・継続=2人 ・短期・単発=8人</p>
<p>3. ワールド・スマイル・ガーデン実行委員会 H.26…②③</p> <p>◇ワールドデンの取り組みを進める組織として、地域住民による「ワールド・スマイル・ガーデン実行委員会」を立ち上げ、その中に外国人も入ってもらい話し合いを行った。</p>	<p>◇実施回数=13回(H25-26)</p> <p>◇外国人参加人数</p> <p>・継続=1人</p>

No.4 互いの文化に出会いまなぶ機会をつくる

日外



本市には、世界の約50か国の外国人市民が住んでおり、多様な文化を知ることができる潜在的機会に恵まれています。一方で、文化や習慣が異なることで、不安や摩擦をうみ、偏見や差別を助長している現実もあり、地域がその現場となっています。こうした状況を踏まえ、外国文化に出会い、互いの文化や習慣を肯定的に受けとめ理解することが大切と考え、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市民館などで外国人市民の出身国の文化をまなぶ機会をつくる
- ② 地域の祭りなどで歌や踊りなど相互の文化を披露できる機会をつくる
- ③ 相互の家庭料理や伝統的な生活を体験できる機会をつくる：重
- ④ 伝統的な歳事や季節の行事を共に楽しむ機会をつくる



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. フィリピンイベント H.26<再掲>…①②③</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇4種類の家庭料理(アドボ、ディノラ、パンシット、を在住フィリピン人に教えてもらうとともに、その後の持ち寄りパーティーで多くの参加者に振る舞った。 ◇フィリピンの伝統舞踊であるバンブーダンスを地域のフィリピン人チームに披露してもらったり、一緒に踊ったりした。 ◇フィリピンやフィリピン人について知るクイズを行い、理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文化体験した国数=1ヵ国(フィリピン) ◇文化体験した内容=食、踊り、言葉、地理・歴史
<p>2. ワールド持ち寄りパーティー H.25<再掲>…③</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇外国料理として、中国料理の「水餃子」「落花生塩炒め」「麻婆豆腐」、ブラジル料理の「ポロサウガード(塩辛いケーキ)」、フィリピン料理の「パンシット(フィリピン焼きそば)」が持ち寄られ、いただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文化体験した国数=3ヵ国(中国、フィリピン、ブラジル) ◇文化体験した内容=食、言葉
<p>3. ワールドデンにおける収穫祭 H.26<再掲>…③</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇在住ブラジル人に、収穫した野菜を使ったブラジル料理(パステル)を作ってもらい、収穫祭で参加者に振る舞った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文化体験した国数=1ヵ国(ブラジル) ◇文化体験した内容=食
<p>4. 新春蹴り初めイベント(餅つき)H.26<再掲>…④</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇日本の文化の一つとして、餅つきを楽しんでもらうイベントを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文化体験した国数=1ヵ国(日本) ◇文化体験した内容=食

No.5 地域に相談できる人をつくる

外



外国人市民に対する相談は行政が行うものもありますが、地域で暮らし生活するうえでの不安や悩み、地域が生活圏である子どもに関する不安や悩みなどについては、地域できめ細やかに相談できる人が、家族や親族以外にもいると多面的な情報が得られて安心できます。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民のニーズに対応できるまちづくりコーディネーターを養成する
- ② 外国人市民と日本人市民が家族ぐるみの関係を育むしくみをつくる：☑



第1期に実施した内容	実績等データ
1. 各イベントへの参加・参画による関係づくり H.25-26…② ◇「しくみ」までは出来ていないが、これまで開催した各イベントには、家族連れの参加も多く、家族ぐるみの関係づくりに一役を買っている。	なし
2. ワールド・スマイル・ガーデンのチームガーデン H.26…(②) ◇外国人家族と日本人家族がチームを組んで、花や畑を作るスペースを全体計画では用意した。(現時点で、全体の整備に力点を置くということで保留している)	なし

No.6 あいさつしあえるようにする

日外



地域におけるあいさつが多文化共生の第一歩です。特に、異国の地に来た外国人市民にとって、あいさつで話しかけられることが、地域に受け容れられているという安心感につながります。そのために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容













- ① 地域におけるあいさつ運動をすすめる
- ② 外国人市民の母国語によるあいさつを学ぶ機会をつくる：☑



第1期に実施した内容	実績等データ
1. 多文化共生イベント等における各国あいさつの紹介 H.25-26…② ◇多文化共生イベントなど機会あるごとに、各国のあいさつ(こんにちは、ありがとう、またね等)を学ぶ機会をつくり、言葉を交わせるように促す配慮を行った。	なし

3 「地域」の取り組み施策の今後の課題

第1期に実施した取り組み内容を踏まえた、取り組み施策の今後の課題は下表のとおりです。

取り組み施策	達成度	今後の課題
No.1 地域に交流する場・機会をつくる	 	【取り組めていない内容】 ④ 外国人市民のコミュニティに日本人市民が参加する機会をつくる 【今後の課題】 ◇ プロジェクトに参画する外国人の増員 ◇ 普段からの助け合いにつながるような関係づくり ◇ モデル地域での成果の他地域への波及
No.2 地域の情報を共有する	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 ◇ 既存の地域行事に関する情報を必要に応じた多言語化 ◇ 外国人への情報を届ける外国人からの情報を受け取る確実なルートづくり
No.3 地域の活動を共にすすめる	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 ◇ 外国人のイベントへの参加からプロジェクト会議・実行委員会への参画の増員 ◇ 新たな地域貢献活動から既存の自治活動へのつなぎ
No.4 互いの文化に出会いまなぶ機会をつくる	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 ◇ 継続的な多様な学ぶ機会の提供
No.5 地域に相談できる人をつくる	 	【取り組めていない内容】 ① 外国人市民のニーズに対応できるまちづくりコーディネーターを養成する 【今後の課題】 ◇ コーディネーターや「しくみ」のあり方の検討
No.6 あいさつしあえるようにする	 	【取り組めていない内容】 ① 地域におけるあいさつ運動をすすめる 【今後の課題】 ◇ プロジェクトメンバーによる率先した取り組み

4

「教育の場」の取り組み施策の実績

No.1 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる

全



国際化が進む世界の中で、国際的視野を持ち、共生していくためには、子どもの頃から多様な文化に出会い、それを受容する心を育てていくことが大切です。学校では、「生きる力」を育むために、総合的な学習のための時間があり、「国際理解」も取り組むテーマに位置づけられています。また、本市には国際展開している企業が多く、半年以上の海外滞在経験者は推定で約8,000人います。そうしたことを踏まえ、すべての子どもを対象に、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 様々な国、多様な文化に、肯定的に出会う機会を充実させる
- ② 生きた教材、海外で活躍した人の授業での活用を充実させる：■
- ③ 給食や家庭科などで外国の食文化にふれる機会を充実させる
- ④ 生きた外国語をまなび、使う機会を充実させる
- ⑤ 多様な外国人と出会い交流し、友だちになれるような機会をつくる
- ⑥ 留学の機会や訪問国を多様にする
- ⑦ 海外校との提携やユネスコスクール[※]登録などによる学校の国際化を図る：■

※ ユネスコスクール：世界の学校と生徒間・教師間で交流し、情報や体験を分かち合い、地球規模の課題に子どもが主体的に取り組めるよう教育をめざしているユネスコに登録した学校。

- <参考情報> ALT…外国語指導助手(Assistant Language Teacher)
 KIFA…刈谷市国際交流協会(Kariya International Friendship Association)
 KFAV…刈谷市国際交流協会親善ボランティア(KIFA Volunteer)
 ESD…持続可能な開発のための教育(Educator for Sustainable Development)

「②生きた教材、海外で活躍した人の授業での活用」については、個別学校で必要に応じて行われている。
 例：刈谷北高校「国際理解講座」(H.2E)で、(株)イーネットのタイ駐在経験のある方を講師に招く



次ページ表

第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. ALT、ボランティアを交えた小学校英語・国際理解活動 H.24…①②④</p> <p>◇全小学校において、5、6年生の各学級で英語に親しむため、ALTと学級担任で授業を実施している。</p> <p>◇一部の小学校では、市派遣のALT以外にボランティア(ドイツ、フィリピン、アメリカ、インド、アメリカ在住経験のある日本人)を導入している。</p>	<p>◇ALT人数=5人</p> <p>◇ALTによる授業時間数=35時間/年</p>
<p>2. KIFAV 日本語教室学校訪問 H.24-26…①②⑤</p> <p>◇日本語教室へ通う外国人が朝日小学校を訪れ、国際交流授業で、文化紹介や交流を行った。※KIFAV…刈谷市国際交流協会親善ボランティア</p>	<p>◇訪問校数=1校/年</p>
<p>③. 刈谷北高校学校ESDプロジェクト出前授業 H.24-26…①⑦</p> <p>◇国際理解コースの生徒に対し、様々な国のクイズや教材を使い、世界の同一性と多様性を学ぶプログラムを提供した。</p> <p>◇同出前授業で、生徒が、姉妹校(カナダ・ミササガ市のスティープルニス校)との交流に向けたビジョンと「はじめの一歩」を考える機会を提供した。</p>	<p>◇実施回数=2時間×3回/年</p> <p>◇授業を受けた生徒数=約20人/年</p>
<p>4. 愛知教育大学の協定校との交流 H.24-26…②⑥</p> <p>◇現在、世界11ヶ国の20大学等と学術交流協定を締結し、これらの大学と協定に基づき積極的な交換留学生の派遣及び受入を行っている。愛知教育大学の留学生がKIFA(V)の活動に協力しているケースが多い。</p>	<p>◇外国人留学生数(H.25)=64人 (中国36人、台湾10人、ミャンマー7人、インドネシア2人、アメリカ2人、韓国、カンボジア、ブラジル、モンゴル、ラオス、ケニア、イエメン各1人)</p>
<p>⑤. 中高生イングリッシュ・キャンプ H.24-26…④</p> <p>◇KIFAと刈谷北高校が協働し、中高生を対象に一日英語づけのイベントを開催し、生きた外国語を学び、活用する機会を作った。</p>	<p>◇実施回数=2回/年</p> <p>◇参加生徒数(H.25)=40人(夏)、37人(冬)</p>
<p>⑥. 刈谷北高校による海外校との姉妹校提携と交流 H.24-26…⑤⑦</p> <p>◇学校ESDプロジェクトを契機に、カナダ・ミササガ市にあるスティープルニス校と姉妹校提携を行い、姉妹校への生徒派遣、英文手紙、ブログ等で交流している。※ESD…持続可能な開発のための教育</p>	<p>◇姉妹校派遣生徒数(H.25)=12人/年</p> <p>◇姉妹校派遣生徒数(H.26)=12人/年</p>
<p>7. 刈谷高校による海外校との交換留学 H.24-26…⑤⑥</p> <p>◇昭和63年から英国のイートン校との交換留学を行っている。イートン校生訪問の際に、市民協働課が一部協力している。</p>	<p>◇交換留學生徒数 (イートン高→刈谷高) (H.24)=8人/年、(H.26)=9人/年</p>
<p>⑧. 国際交流フェスタ等への刈谷北高校生の参加 H.24-26…⑤</p> <p>◇毎年度、国際交流フェスタに参加し、外国人や海外に関心のある大学生らとともに活動することで、異文化と関わる機会となっている。</p>	<p>◇参加生徒数(H.26)= 2年生8人+1年生22人=30人</p>
<p>⑨. 刈谷北高校のユネスコスクールへの登録 H.26…⑦</p> <p>◇学校ESDプロジェクトを通して、刈谷北高校がユネスコスクールに登録された。</p> <p>◇その他市内では、富士松南小学校、刈谷高校、愛知教育大学が、それ以前に登録している。</p>	<p>◇ユネスコスクール登録校数=4校</p>

No.2 子どもの学校生活をサポートする

外



本市の小・中学校に在籍する外国籍児童・生徒は、平成23年（2011年）10月末現在200人で、平成14年（2002年）以降増加傾向にあります。国籍別には、フィリピンが89人と最も多く、ブラジル68人、中国17人、ペルー9人などとなっています。こうした外国にルーツを持つ子どもの多くは、日本語の指導をはじめとして学校生活や将来に対するサポートを必要としています。こうした状況を踏まえ、必要に応じて、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 通訳・指導員等による日本語・学習支援を充実させる
- ② 授業外で学校生活を支援するプレクラスを充実させる
- ③ 学校と大学や市民ボランティアとの連携による取り組みを充実させる： ■
- ④ 中学校卒業後の日本での進学、就職、自立についてのサポートを行う
- ⑤ 宗教などを背景とした食や習慣について理解や対応を行う



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 外国人児童生徒語学指導員巡回指導 H.24-26…①④⑤</p> <p>◇日本語教育を必要とする外国籍児童生徒の日本の学校への受入れを円滑に進め、早期に適応できるよう指導の充実を図るため、語学指導員が各小中学校や幼稚園を巡回し、日本語の指導を行ったり、子どもや親の相談に応じた。（ポルトガル語…月曜 13:20～14:30、火～金曜 8:30～15:30、フィリピン語…月～金曜 9:00～15:30 に関係小中学校や幼稚園の訪問要請にあわせて訪問）</p>	<p>◇語学指導員数＝2人 （ポルトガル語1人、フィリピン語1人）</p> <p>◇巡回指導対象児童生徒数（H.25） ポルトガル語＝小38人、中6人 フィリピン語＝小56人、中15人</p>
<p>2. プレスクール(クラス)の開設 H.24-26…②</p> <p>◇ポルトガル語やタガログ語しか理解できず、日本の生活習慣が身につけていない子ども（入学前の園児、小・中学生）を支援するために、フィリピン語、中国語、ポルトガル語の語学相談員を学校へ派遣し、日本語指導などを行った。かりがね小学校…月・火・木曜、朝日小学校…火・水・金曜、9:00～15:00）</p>	<p>◇語学相談員数＝3人 （ポルトガル語1人、フィリピン語2人）</p> <p>◇プレスクール参加児童数（H.25） かりがね小学校＝小10人、中1人 朝日小学校＝小9人、中1人</p>
<p>③. ボランティア団体『SSS』による取り出し授業 H.24-26…③</p> <p>◇日本語に不慣れなため、授業についていくことが難しい児童生徒について、日本語指導ボランティアによる「取り出し授業」を実施した。</p>	<p>◇児童生徒数（H.25 迄）＝小学生5名、中学生4名（国籍…インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、ベトナム等）</p>
<p>4. 愛知教育大学外国人児童生徒支援プロジェクト H.24-26…③</p> <p>◇愛知教育大学と刈谷市教育委員会、学生派遣希望校が協働し、愛知教育大学のボランティア学生が、大学が開発した独自教材を使って、外国人児童生徒の学習支援を行っている。</p>	<p>◇派遣学校数（H.25） ＝小学校1校、中学校1校</p>
<p>⑤. 外国につながる子どもと保護者のための進路説明会 H.24, H.26…④</p> <p>◇刈谷市国際交流協会が愛知県国際交流協会との共催により、外国につながる子どもとその親に、日本で進学、就職する上で必要な教育制度等について情報を提供し、親子で将来のことを一緒に考える機会をつくった。</p>	<p>◇実施回数計＝2回</p> <p>◇参加人数（H.26）＝42人</p> <p>◇外国人生徒の高校等への進学者数（H.24）＝4人 →目標（H.27）6人</p>

No.3 子ども同士が、認め合えるようにする

外日



子どもを持つ外国人保護者の55%が「子どもへの差別やいじめ」を子育ての不安や悩みの内容と答えています。外国にルーツを持つ子どもに対する差別やいじめをなくすためには、異なる外見、通じない言葉、違和感を覚える習慣・行動など自分とは異なるものへの恐れや多数派の論理を乗り越え、子ども同士がお互いを認めあえるようにすることが重要であり、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 相互の文化などを肯定的に理解できる機会をつくる
- ② 自他を尊重し人権意識を高める教育プログラムを幼少期から取り入れる
- ③ すべての子どもが、認められ褒められる機会を作る
- ④ 身近なことから双方の違和感について率直に話し合える環境をつくる



第1期に実施した内容	実績等データ
※個別の学校、クラスでは、取り組まれていると思われるが、現状把握や「施策」的な取り組みは行われていない。	なし

No.4 子どもの保護者をサポートする

外



子どもを持つ外国人保護者の不安や悩みの内容には、「子どもの未就学や不登校」が8%あり、併せて統計上も外国人登録者数と学校在籍数に差があり、帰国、転居、他学校在籍の場合もありますが、未就学となっている可能性があります。また、外国人保護者の中には、日本語力不足や学校の制度・文化の理解不足のために、子どもの幼稚園・保育園や小・中学校への適応を遅らせている場合もあります。そうした状況を踏まえ、外国にルーツを持つ子どもの保護者に対して、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 未就学、不登校の子どもを把握し、就学・登校に向けて支援を行う：■
- ② 保護者の子どもに関する相談・支援体制を整える：■
- ③ 保護者に学校の制度、習慣、行事などを丁寧に伝える機会をつくる：■
- ④ 保護者に対する日本語学習や多様性理解をすすめる：■



次ページ表

第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 外国につながる子どもと保護者のための進路説明会 H.24,26<再掲>…②</p> <p>◇外国にルーツを持つ児童生徒と保護者向けに進路相談会を開催した。</p>	<p>◇実施回数計=2回</p> <p>◇参加者数(H.26)=42人</p>
<p>2. 外国人児童生徒語学指導員巡回指導 H.24-26<再掲>…②③</p> <p>◇指導員が各小中学校や幼稚園を巡回し、子どもや親の相談に応じた。</p> <p>◇各小中学校や幼稚園の要望に応じ、ポルトガル語やタガログ語による保護者あて通知文等の翻訳や教育相談、通訳派遣などを行った。(学年だより、通知表の所見、健康調査・問診、学校生活(行事)の翻訳、進学就学指導懇談会での通訳)</p>	<p>◇語学指導員数=2人 (ポルトガル語1人、フィリピン語1人)</p> <p>◇巡回指導対象児童生徒数(H.25) ポルトガル語=小38人、中6人 フィリピン語=小56人、中15人</p>
<p>3. 各種日本語教室<詳細は「公共施設・機会 No.7」参照>H.24-26…④</p> <p>◇KIFAVによる日本語教室、愛知教育大学学生ボランティアによる土曜親子日本語教室などにより、保護者に対する日本語学習や随時開催の行事を通じて多様性理解を進めている。</p>	<p>※公共施設・機会 No.7参照</p>

No.5 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる

全



どの国の国民も、自国に対する誇りがあるのと同様に、どの国にも解決すべき課題があります。グローバル化が進み、一国の問題はもはや一国だけのものではなく、互いに影響を与えながら存在する現代にあって、「交流」だけでなく、「交流から共生へ」と一歩先に進む必要があります。国や他者、多文化と肯定的に出会い交流するだけでなく、地域の課題、地球の課題について知り、それらの課題と自分との関わりを理解し、協働して地域や地球の課題解決に取り組むことが重要です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域や世界のニュース、課題を取り上げ考える機会を充実させる
- ② 違いを乗り越え関わる力を育むための参加型の国際理解教育を広げる：☑



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
<p>1. 刈谷北高校学校ESDプロジェクト出前授業 H.24-26<再掲>…①②</p> <p>◇国際理解コースの生徒に対し、「自分と他者、社会、未来とのつながりや多文化共生の必要性を理解したり、世界が抱える課題の背景や原因をさぐり、解決のために必要なもの・役立つことを考え、自分たちが出来ることを行動につなげる」ためのプログラムを出前授業で提供した。</p>	<p>◇実施回数=2時間×3回/年</p> <p>◇授業を受けた生徒数=約20人/年</p> <p>◇自分にできる国際協力への取組みに関心を持つようになった…H.25:5人→H.26:8人</p> <p>◇自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った…H.25:3人→H.26:8人</p>

<p>2. 総合的な学習実施事業 H.24-26……①②</p> <p>◇自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるため、総合的な学習の時間を使った国際理解、情報、環境、福祉等の今日的な課題などの学習を行う小中学校に補助金を交付した。（取り組みテーマ…国際理解3校、情報1校、環境7校、福祉2校、健康4校、キャリア教育10校）</p>	<p>◇1校あたり補助金(H.24)＝約15万円</p> <p>◇(参考)総合的な学習の時間が生活に役立つと思う子どもの割合(H.24)＝85% →目標(H.27＝90%)</p>
--	--

No.6 地域社会で子どもをサポートする 外日



地域では、小学校などの施設を活用し地域住民が子どもと遊び学ぶなど活動を行う「放課後子ども教室」、週末に子どもが安心して集える居場所を提供する「キッズクラブ」、中高生の自立を支援し地域の中で子どもを育む「中高生の居場所づくり」、スポーツを通じて地域づくり・人づくりをすすめる「総合型地域スポーツクラブ」など、地域社会で直接・間接的に子どもを支える活動が多様に行われています。こうした事業を含め、外国にルーツを持つ子どもに対しては特別に配慮を促しながら、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容


- ① 放課後の子どもの居場所づくりを充実させる
- ② 子どもの意見表明や子どもの社会参画を充実させる
- ③ 子どもの安全・安心を地域で支えることを充実させる
- ④ 地域と大学や市民ボランティアとの連携による取り組みをすすめる：☑



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
<p>1. ボランティア団体『SSS』による取り出し授業 H.24-26<再掲>…①</p> <p>◇日本語に不慣れなため、授業についていくことが難しい児童生徒について、日本語指導ボランティアによる「取り出し授業」を実施する中で、外国人児童生徒が主役になるような機会、既存の日本語教室への参加し、多様な人たちと関わる機会の提供を行っている。</p>	<p>◇児童生徒数(H.25迄)＝小学生5人、中学生4人(国籍…インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、ベトナム等)</p>
<p>2. 各地域における既存のサポート事業 H.24-26…①③④</p> <p>◇左記の取り組み施策の説明文にある既存の各種子どもの地域サポート事業は、サッカークラブをはじめ、一部の外国人児童生徒も受益者となっていると思われる。</p>	
<p>3. 一ツ木町子ども日本語クラス H.25…④</p> <p>◇愛知教育大学の学生ボランティアによる一ツ木市民館での子どもを対象にした日本語会話、学習支援、生活支援を夏休み、冬休みに行った。ワールド持ち寄りパーティーなどで広報支援を行った。→H.26で廃止。</p>	<p>◇参加者数(H.25)＝若干名</p>

5 「教育の場」の取り組み施策の今後の課題

第1期に実施した取り組み内容を踏まえた、取り組み施策の今後の課題は下表のとおりです。

取り組み施策	達成度	今後の課題
No.1 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる		<p>【取り組めていない内容】</p> <p>③ 給食や家庭科などで外国の食文化にふれる機会を充実させる</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ A L T以外で個別学校に行われている生きた教材、海外で活躍した人の活用の「しくみ」化の検討 ◇ 刈谷市や KIFA が行っている国際化・多文化共生活動への児童・生徒のより多くの参加・参画
No.2 子どもの学校生活をサポートする		<p>【取り組めていない内容】 なし</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ フィリピン人児童生徒急増に伴うフィリピン語学指導員の増員
No.3 子ども同士が、認め合えるようにする		<p>【取り組めていない内容】 不明</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 外国につながる子どもが多い小中学校における現状把握、協働による取り組み施策の実施の検討
No.4 子どもの保護者をサポートする		<p>【取り組めていない内容】</p> <p>① 未就学、不登校の子どもを把握し、就学・登校に向けて支援を行う</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 未就学、不登校の外国にルーツのある子どもの把握と対応 ◇ きめ細やかな保護者への学校の制度等の理解促進の支援 ◇ 親子コミュニケーション支援、母語母国文化を学ぶ機会作り
No.5 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる		<p>【取り組めていない内容】</p> <p>① 未就学、不登校の子どもを把握し、就学・登校に向けて支援を行う</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校における E S D の考え方を取り入れた授業の普及
No.6 地域社会で子どもをサポートする		<p>【取り組めていない内容】</p> <p>② 子どもの意見表明や子どもの社会参画を充実させる</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 外国につながる子どもの放課後や地域における実態の把握と支援のあり方の検討 ◇ 子どもの権利条約に基づく、子どもの意見表明や社会参画の推進

6

「公共施設・機会」の取り組み施策の実績

No.1 公共サービスの外国人市民対応化をすすめる

外



外国人市民の日本語会話の能力は、「日本人と同程度」23%、「日常会話」38%、「簡単な単語なら聞き、話せる」37%、「まったく会話できない」2%となっています。国籍別ではブラジルとフィリピンの人々の日本語会話できる能力・割合が低くなっています。また、「聞く・話す」はできても「読む・書く」はできない外国人市民が多く、さらに、行政用語、医療用語など専門的な言葉の理解度は、必要であるにも関わらず低くならざるを得ません。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市役所において主要言語による通訳の配置を充実させる
- ② ニーズに応じた看板・紙媒体・電子媒体の主要言語表記を充実させる
- ③ ピクトグラム・やさしい日本語などユニバーサルな案内表示を充実させる
- ④ 公共施設職員や市民ボランティアの外国語力の育成、活用のしくみをつくる
- ⑤ 市内の医療機関における医療通訳などの対応をすすめる



第1期に実施した内容	実績等データ
1. 多言語による外国人生活相談員の配置 H.24-26…① ◇市民相談事業のために、市民安全課に、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語に対応した外国人市民相談員が配属されている。	◇対応言語数=4言語 ◇相談員数=4人
2. 刈谷市ホームページの外国語自動翻訳機能追加 H.24…② ◇刈谷市ホームページをリニューアルし、外国語自動翻訳を充実させた。	◇対応言語数=4～5言語
3. 生活情報誌の多言語化・無料配布 H.24-26…② ◇KIFAで、「私たちのまち刈谷」、「暮らしのガイドブック」、「愛知生活便利帳」などの翻訳生活情報誌を配置するとともに一部はウェブサイトでも提供している。	◇対応言語数=3～4言語 ポルトガル語、中国語、フィリピン語、英語版
4. KIFAV 通訳翻訳グループ活動 H.24-26…④ ◇市内や近隣地域の外国人や諸外国から訪問するゲストのために、通訳・翻訳をしている。(通訳例…ミササガ市民団との交流会、外国語絵本の読み聞かせ、工場見学、健康相談会、翻訳例…カキツバタパンフレットやKIFA刊行物)	◇対応言語数=5言語 ◇ボランティア数=39人
5. KIFA外国語教室 H.24-26<別掲>…④ ◇協会会員を対象に、毎年度の英会話教室(ビジネス、旅行)をはじめ、年によりフランス語、イタリア語、スペイン語、中国語、韓国語の教室を開催している。	◇開催言語数(H.24-26)=6言語 ◇受講者数(H.25)=57人
6. あいち医療通訳システム H.24-26…⑤ ◇平成24年に「あいち医療通訳システム協議会」を立ち上げられ、利用者からの要望に応じて、英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・フィリピン語による電話通訳などを一部の市内病院が利用している。	◇対応言語数=5言語

No.2 国際化・多文化共生の拠点をつくり、最大限に活かす

全



刈谷市国際プラザに求める機能は、外国人市民が、「外国人への差別や偏見をなくすように日本人へ意識啓発をすすめる」59%、「外国人に必要な情報を多言語で発信する」55%、「日本人と外国人が知りあい交流をすすめる」53%、日本人市民が、「外国人が日本の文化や習慣について学ぶ」50%、「外国人が日本語の学習をする」44%、「日本人が外国の文化や習慣/外国語を学ぶ」43%となっています。また、外国人市民の利用意向は、「企画運営にも参画したい」も含め「積極的に利用したい」が62%と高い。こうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 刈谷市国際プラザを整備する：■
- ② 外国人市民のニーズに合った環境とプログラムを用意する：■
- ③ 日本人市民の国際化をすすめるプログラムを用意する：■
- ④ 外国人市民と日本人市民の出会いと情報交換の場にする：■
- ⑤ 市民参画によるより良い拠点づくりをすすめる：■



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 国際プラザの整備・管理事業 H.24-…①④</p> <p>◇平成24年4月に刈谷市国際プラザがオープンし、刈谷市国際交流協会(KIFA)の活動拠点となっている。ラウンジは無料で誰でも利用できるように開放している。(開館時間…9:00～21:00、休館…月曜、年末年始)</p>	<p>◇国際プラザ利用者数の推移</p> <p>H.24=8, 584人 H.25=11, 382人 H.26.10 末迄=6, 376人</p>
<p>2. 関連団体からの多言語案内の配架、掲示 H.24-26…②</p> <p>◇フィリピン語、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、英語、その他の言語のラックを用意し、関連各種団体から送られてきた外国人向け案内を配架している。</p> <p>◇ラウンジの壁一面にはコルク掲示版を整備し、外国人向け案内ポスターや国際化・多文化共生の活動の様子などを掲示している。</p>	<p>◇対応言語数=6言語+α</p> <p>◇1ラックあたり配架可能数=30口</p>
<p>3. 外国書籍や新聞などの閲覧提供 H.24-26…②</p> <p>◇アメリカ、中国、ブラジルの雑誌や新聞を自由に閲覧できるようにしている。</p>	<p>◇対応言語数=3言語</p> <p>◇購読雑誌・新聞数=8種</p>
<p>4. 国際プラザを活用した外国人向け各プログラム<別掲>H.24-26…②④</p> <p>◇国際プラザを活用して、「外国籍住民のための健康相談会」、「フィリピン人コミュニティ支援事業及び無料生活相談会」、「KIFAVによる日本語教室」、「日本文化を通じた交流」、「グローバル・カレッジ in KARIYA」など多様な外国人向けプログラムを用意し、実施している。(詳細は他の項目に個別に記載)</p>	<p>※別掲個別事業参照</p>
<p>5. 国際プラザを活用した日本人向け各プログラム<別掲>H.24-26…③④</p> <p>◇国際プラザを活用して、「外国語教室」、「ワールド・キッチン」、「外国絵本の読み聞かせ」、「ボランティア研修会」、「中高生イングリッシュ・キャンプ」、「国際理解講座～世界をのぞこう!」、「グローバル・カレッジ in KARIYA」など多様な日本人向けプログラムを用意し、実施している。(詳細は他の項目に個別に記載)</p>	<p>※別掲個別事業参照</p>

<p>6. 地球市民拠点プロジェクトとグローバル・カレッジ H.24-26…②③④⑤</p> <p>◇平成 24 年度に各セクター(市民、学校、企業・NPO、学生、行政、KIFA 等)の協働による地球市民拠点プロジェクトを立ち上げ、メンバー発案による国際化・多文化共生を進める講座「グローバル・カレッジ in KARIYA」の企画・実施した。</p> <p>◇プロジェクト会議の中で、国際プラザの魅力向上について検討した。</p> <p>◇平成 26 年度に、グローバル・カレッジの必須条件として次の4つを掲げ、より市民主体の企画・運営に向けて取り組んでいる。(「楽しく学び、課題に気づく場であること」、「出会いがあり、つながりができること」、「地球規模の課題を解決し、誰かのため、未来のための行動につながること」、「国際プラザを最大限活用していること」)</p>	<p>◇プロジェクト会議開催数(H.24~26) = 33回(他に個別チーム会議あり)</p> <p>◇メンバー数(H.26) = 26人</p> <p>◇グローバル開催数(H.24-26) = 13回</p> <p>◇グローバル参加者数(H.24-26) = 666人(うち外国人 = 186人)</p> <p>◇参加者満足度(H.24-26) = 98~100%</p>
<p>7. KIFA:親善ボランティアの支援 H.24-26…⑤</p> <p>◇KIFA登録ボランティアに対して、活動支援やボランティア研修会を開催している。(グループ H.26…通訳翻訳、文化交流、日本語支援、国際イベント)</p> <p>※他の取り組み施策にも関連する内容であるが、ここにのみ記載する。</p>	<p>◇ボランティアグループ数 = 4</p> <p>◇H.26 登録ボランティア人数 総数237人、日本語114人、文化交流47人、通訳翻訳58人、イベント35人</p>
<p>8. 国際プラザの部屋の貸し出し事業 H.24-26…⑤</p> <p>◇地域の国際化推進を目的とする団体で、あらかじめ登録された国際関係団体に、国際プラザの201会議室、202会議室、国際交流室、ラウンジの貸し出しをし、利用してもらっている。</p>	<p>◇登録団体数(H.26) = 22団体 うち外国人主体団体数 = 8団体</p> <p>◇施設貸し出し回数(H25) = 578回</p>

No.3 外国人市民向けサービス・情報提供を充実させる

外



外国人市民にとって、暮らしに必要とされている情報は、1位が「病気事故時の連絡先や対処方法」47%、2位「外国人向け講座やイベントの情報」47%、3位「健康保険や年金の情報」40%、4位「避難所など災害対策の情報」38%から、最も低い「まちづくり参画のための情報」でも13%と一定のニーズがあり、多様な情報と関連するサービスを必要としています。一方で、外国人相談窓口、日本語教室の認知度は50%を超えているものの、国際交流フェスタ、防災教室、安全教室の認知度は15~25%と低く、必要な情報が届いていない可能性があります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 主要言語に対応した外国人生活相談窓口を充実させる
- ② 刈谷の暮らし方セミナーなど総合的に必要な情報が得られる機会をつくる
- ③ 外国人市民に届きやすい媒体・ネットワークによる情報提供のしくみをつくる
- ④ 多文化ソーシャルワーカーなど県事業との連携を図る



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 外国人相談員による相談事業<再掲> H.24-26…①</p> <p>◇市役所市民安全課に、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語に対応した外国人相談員を置き、外国人からの相談事業を行った。</p>	<p>◇相談件数(H.25) = 7,405件</p>
<p>2. KIFA: 外国籍住民のための健康相談会 H.24-26…①</p> <p>◇KIFAV の通訳ボランティア(英語、中国語、フィリピン語、スペイン語、ポルトガル語)の協力、NPO 法人外国人医療センターをはじめ刈谷医師会や刈谷市歯科医師会の協力ののもと、健康診断、歯科検診、レントゲン検査、医師による問診など様々な検査を行った。</p>	<p>◇開催回数=1回/年</p> <p>◇参加者外国人数(H.26)=41人</p>
<p>3. フィリピン人コミュニティ支援事業及び無料生活相談会 H.25…②</p> <p>◇在大阪フィリピン領事館と協働し、1日出張受付サービス(ビザ等の発行・相談等)を実施した。</p>	<p>◇開催回数=1回</p> <p>◇参加者外国人数=約450人</p>
<p>4. 関連団体からの多言語案内の集中配架、掲示 H.24-26<再掲>…②</p> <p>◇国際プラザにおいて、主要言語のラックを用意し、関連各種団体から送られてきた外国人向け案内を配架している。また、ラウンジの壁一面にはコルク掲示板を整備し、外国人向け案内ポスターなどを掲示している。</p>	<p>◇対応言語数=6言語+α</p> <p>◇1ラックあたり配架可能数=30口</p>
<p>5. グローカル・カレッジでの無料連絡バス試乗講座 H.24-25…②</p> <p>◇イベント参加で交通手段がないという現状を踏まえ、グローカル・カレッジ in KARIYA において、無料の公共施設連絡バスの利用方法のレクチャーを含めた市内施設等を無料連絡バスで訪れ、楽しく文化交流する企画を実施した。</p>	<p>◇開催回数=2回</p> <p>◇参加外国人数(2回計)=25人</p>
<p>6. 県事業など広域的サービスとの連携 H.24-26…④</p> <p>◇外国人生活相談で必要に応じて紹介したり、国際プラザにおいて多言語の案内チラシを配架、掲示して周知した。</p>	<p>なし</p>

No. 4 防災と災害時のサポートをすすめる

外



外国人市民の東海地震・東南海地震が起きる可能性が高いという認知度は61%（フィリピン人に限ると37%）と日本人市民の89%より低くなっています。また、地震などへの備えも十分とは言えません。一方、外国人市民が必要としている情報の4位は「避難所など災害対策の情報」38%となっています。外国人市民は、言葉の壁が障害になる災害時要援護者であり、こうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 災害に関する情報を伝え、防災意識を高め、災害への備えを促す
- ② 外国人市民が参加できる防災訓練を充実させる
- ③ 災害発生時に多言語による必要な情報共有のしくみをつくる



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 外国籍住民のための防災講座 H.24-26…①②</p> <p>◇平成25年度は、市内で最も外国人が多い一ツ木町で、KIFAと危機管理課が協働し、自主防災会や防災ボランティアなどの方々と協力して開催した。 (主な内容…災害の現実映像紹介、家庭で準備しておくべき物品紹介、保存食品試食、避難所の位置や自宅からの経路確認)</p> <p>◇なお、平成24年度以前は、危機管理課単独で、外国籍市民のための防災体験(名古屋市港防災センター)というイベントを行っていた。</p>	<p>◇開催回数=1回/年</p> <p>◇外国人参加数(H.25)=47人</p>
<p>2. 県や関連団体・NPO広域的サービスの周知 H.24-26…①</p> <p>◇国際プラザにおいて、件や関連団体・NPOが発行している防災に関する多言語の案内チラシを配架して周知した。</p>	なし

No.5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる

外日



本市は、共存・協働のまちづくり推進条例を制定し、関係主体によるまちづくりを推進しています。外国人市民もまちづくりを担う関係主体(市民)であり、参画する権利と役割があります。外国人市民の55%(中国人は79%)が社会に貢献したい気持ちがあり、望むまちの姿には「安心・安心で暮らせるまち」56%に次いで「違いを尊重・共に生きるまち」49%を挙げています。さらに、国際化・多文化共生のために、具体的にやりたいこと、貢献できそうなことが多く寄せられています。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 母国の文化紹介などまちづくりイベントを共に盛り上げる機会をつくる
- ② 外国人市民も交えたまちづくりの話しあいの場を設ける
- ③ 外国人市民のまちづくりコーディネーターを養成する
- ④ 外国人市民ボランティアを育成し、能力を活かした活躍の場をつくる



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. KIFA: 外国絵本の読み聞かせ H.24-26<別掲>…①④</p> <p>◇ネイティブスピーカーとして外国人のボランティアに協力してもらい、幼稚園・保育園児とその保護者を対象に外国で親しまれている絵本を、原語と日本語で紹介する読み聞かせ会を実施した。(協力外国人…H.24:フィリピン・中国・イギリス・ブラジル、H.25:フランス・カナダ・タイ・アメリカ、H.26:スペイン・中国)</p>	<p>◇開催回数=2回/年</p> <p>◇協力外国人数=4人/年 (総数 H.25 の2回計=96人)</p>
<p>2. KIFAV: 国際交流フェスタ in KARIYA H.24-26<別掲>…①</p> <p>◇近隣在住の外国人が母国のチームリーダーとなり、日本人とともにチームを作り、母国の食、歌やダンスなどの文化紹介を披露しあい、相互に交流するイベントを毎年度行っている。平成25年度の参加国は、日本・タイ・台湾・ベトナム・インドネシア・中国・韓国・東アフリカの8カ国であった。</p>	<p>◇開催回数=1回/年</p> <p>◇外国人を含む総ボランティア数(H.26)=180人</p> <p>◇総参加者数(H.26)=410人</p>

<p>③. KIFA(V):ワールド・キッチン H.24-26<別掲>…②</p> <p>◇市内や近隣地域在住の外国人を講師として招き、母国の郷土料理を紹介してもらっている。(取りあげた国…タイ、アメリカ、中国、ベトナム、ロシア、フィリピン)</p>	<p>◇開催回数=3回/年</p> <p>◇協力外国人数(H.25)=3人</p> <p>◇総参加者数(H.25)=75人</p>
<p>④. グローカル・カレッジでの外国人を主役にした講座 H.26…①</p> <p>◇グローバル・カレッジ3年目に、「外国人の担い手・企画の発掘」を目標に掲げ、第1回には、刈谷市の多くに住むフィリピン、中国、ブラジル、ベトナムのゲストや参加者を迎え、言葉や文化を教えてもらう企画を行った。</p> <p>◇第4回には企画から外国人(中国、ブラジル、ベトナム)が関わる講座を実施した。</p>	<p>◇開催回数=2回</p> <p>◇第1回協力外国人数=22人 第1回総参加者数=61人</p> <p>◇第4回協力外国人数=6人 第4回総参加者数=94人</p>
<p>⑤. 一ツ木町におけるプロジェクトへの外国人の参画 H.25-26<別掲>…②</p> <p>◇取り組み施策「地域 No.3 地域の活動を共にすすめる」に記載した活動に、外国人が参画している。</p>	<p>◇継続参画外国人数=2人</p> <p>◇短期・単発参画外国人数=9人</p>

No.6 様々な国の人や文化と出会える場・機会をつくる



本市では、刈谷市国際交流協会を中心に、愛・地球博で一国一市町村フレンドシップ事業の相手国であったインドと出会う「ナマステ・インディア in KARIYA」、愛知教育大学の留学生など外国人と交流する「国際交流フェスタ」、外国文化に出会う「国際交流教室」、「外国語会話入門教室」などの事業を継続して行っています。一方、日本人市民のこうした講座への参加意向は「外国人交流イベントや講座」が40% (40歳未満では54%)、「近隣外国人との交流や話しあい」24%となっており、潜在的なニーズは高いと言えます。そのため次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 様々な国の文化等を知り体験できる機会を充実させる
- ② 外国人と交流する機会を充実させる：重
- ③ 外国語会話を学ぶ機会を充実させる



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. KIFA:ナマステ・インディア in KARIYA H.24-26…①②</p> <p>◇愛知万博の際、一国一市町村フレンドシップ国であったインドとのフレンドシップ継承事業として、ナマステ・インディア in KARIYA を、KIFA が東海地区最大級のインドイベントとして毎年度開催している。(主な内容 H.26…古典舞踊、楽器演奏、スパイス講座、インドアート、インドヨガ、インド式算数、サリー試着体験、インド文化体験、インド料理・雑貨販売、インド支援 NGO との協働講座など)</p>	<p>◇開催回数=1回/年</p> <p>◇参加人数(H.26)=2, 200人</p>
<p>2. カナダ・ストリートホッケー体験交流会 H.24-26…①②</p> <p>◇愛知万博の際、一国一市町村フレンドシップ国であったカナダとのフレンドシップ継承事業として、東海地方に在住のカナダの皆さんに、カナダの庶民スポーツ「ストリートホッケー」の楽しみ方を紹介していただく交流会を開催している。</p>	<p>◇開催回数=1回/年</p> <p>◇参加人数(H.25)=約50人</p>

<p>3. KIFAV:国際交流フェスタ in KARIYA H.24-26…①②③</p> <p>◇KIFAV、市民ボランティア、刈谷北高校生と近隣在住の外国籍の方が一緒に、いろいろな国の歌やダンスの発表、文化紹介で交流するイベントを毎年度開催している。(参加国 H.25…日本・タイ・台湾・ベトナム・インドネシア・中国・韓国・東アフリカ、主な内容 H.25…料理、パフォーマンス(歌や踊り)、交流タイム)</p>	<p>◇開催回数=1回/年 ◇参加人数(H.26)=410人</p>
<p>4. KIFA:国際理解講座～世界をのぞこう！H.24-26…①</p> <p>◇市内在住在勤の JICA 青年海外協力隊 OB・OG を招いて、滞在国の文化や生活習慣、協力隊の活動内容について、わかりやすく紹介していただく講座を開催している。(取りあげた国…インドネシア、ヨルダン、ネパール、ザンビア、ジンバブエ、セントルシア、ガーナ、ポーランド、フィリピン、エクアドル、コロンビア)</p>	<p>◇開催回数(H.24-26)=11回 ◇参加人数(H.25計)=79人</p>
<p>5. KIFA または KIFAV:ワールド・キッチン H.24-26…①</p> <p>◇KIFA 会員向けに、本場の外国料理を体験する料理講座を開催している。(取りあげた国…タイ、アメリカ、中国、ベトナム、ロシア、フィリピン)</p>	<p>◇開催回数=3回/年 ◇参加人数(H.25)=75人</p>
<p>6. KIFA:外国絵本の読み聞かせ H.24-26…①③</p> <p>◇幼稚園・保育園児とその保護者を対象に外国で親しまれている絵本を、原語と日本語で紹介している。(発行国…H.24:フィリピン・中国・イギリス・ブラジル、H.25:フランス・カナダ・タイ・アメリカ、H.26:スペイン・中国)</p>	<p>◇開催回数=2回/年×2ヵ国 ◇参加人数(H.25)=96人</p>
<p>7. グローカル・カレッジ in KARIYA H.24-26…①②③</p> <p>◇グローバル・カレッジでは、定番講座として、様々な国の食文化に触れられる「持ち寄りパーティー」を開催している。その他各国の文化を学ぶ機会を設けたり、簡単な外国語会話を学んだり、すべて講座に共通して参加した外国人と日本人が交流できる機会を設けた。</p>	<p>◇グローバル開催数(H.24-26)=13回 ◇グローバル参加者数(H.24-26)=666人(うち外国人=186人) ◇参加者満足度(H.24-26)=98~100%</p>
<p>8. KIFA:国際プラザ掲示板での世界文化紹介 H.24-26…①</p> <p>◇国際プラザ入口掲示板、ラウンジホワイトボードに、世界の文化を紹介する記事・写真を掲示している。(テーマ:世界の祭り、温泉、料理、朝ご飯、結婚式)</p>	<p>◇紹介テーマ数=3種程度/年</p>
<p>9. KIFA:外国語教室 H.24-26…③</p> <p>◇協会会員を対象に、毎年度の英会話教室(ビジネス、旅行)をはじめ、年によりフランス語、イタリア語、スペイン語、中国語、韓国語の教室を開催している。</p>	<p>◇開催言語数(H.24-26)=6言語 ◇受講者数(H.25)=57人</p>

No.7 日本語学習をすすめる

外



日本で定住し、日本で生活していくためには、日本語を習得することが必要不可欠です。それに対応するために、刈谷市国際交流協会を中心に、日本語教室を開催しています。就労目的で来日した外国人の定住化・永住化が進み、本市の外国人市民の定住意向は63%となっています。今後とも日本語学習のニーズは続くと考えられることから、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民のニーズに応じた日本語教室を充実させる
- ② 日本語教育を担う市民ボランティアの育成を充実させる



※子ども向け日本語学習については、「教育の場」取り組み施策 No.2「子どもの学校生活をサポートする」参照

第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. KIFAV 日本語支援グループによる日本語教室 H.24-26…①</p> <p>◇市内や近隣の外国人のために、国際プラザで、次のとおり日本語教室を開催している。(開催日程 H.26…毎週木曜 9:30~12:00、毎月第2~4土曜日 18:30~20:50、毎月第2~4日曜日 9:30~12:00)</p> <p>◇日本語教室の一環として、7~2月にかけて月1回、日本語教室に通う外国人が日本文化にふれるイベントを開催している。(詳細は取り組み施策 No.9 参照)</p>	<p>◇開催回数=月10~11回×1.5時間</p> <p>◇各回受講外国人数(H.26) = 木曜教室約20人、土曜教室約50人、日曜日教室約60人</p>
<p>2. 愛知教育大学 土曜日本語教室 H.24-26…①</p> <p>◇愛知教育大学の学生ボランティアにより、同大学外国人児童生徒リソースルームにて、次のとおり日本語教室を開催している。(開催日程…毎週土曜日 14:30~16:00、大人クラス・子どもクラス別に実施)</p>	<p>◇開催回数=月4~5回×1.5時間</p> <p>◇各回受講外国人数(H.26) = うち大人=約10人、子ども=約10人</p>
<p>3. JICE: 日系人就業準備研修「仕事で使える! 実践日本語」 H.24-26…①</p> <p>◇日本国際協力センターが、安定的な就業をめざす日系人を対象に国際プラザ等で次のとおり日本語講座を開講している。(H.25 開講…<レベル1>10/1~11/26平日終日、<レベル2>12/1~2/5平日終日、研修時間 90~132時間)</p> <p>※レベル1: 初めて日本語を勉強する人、ひらがな・カタカナが苦手な人</p> <p>※レベル2: ひらがな・カタカナの読み書きができ、日本語の会話が少しできる人</p>	<p>◇開講数=年2回(レベル別)</p> <p>◇受講外国人数(H.25・H26) H25=29人 H26=31人</p>
<p>4. KIFA: 日本語教室ボランティア入門講座 H.24-26…②</p> <p>◇地域での社会貢献に興味がある人、KIFAV 日本語教室にボランティアとして参加したい人を対象に毎年2回、夏と冬に開催している。(主な内容…KIFAV 日本語教室概要説明・教室見学、日本語の教え方デモ授業・教案の作り方、日本語指導の体験・先輩ボランティアとの座談会)</p>	<p>◇開講数=年2回×3日間</p> <p>◇受講者数(H.25)=51人</p>
<p>5. KIFAV 日本語支援グループによる自主勉強会 H.24-26…②</p> <p>◇毎月第1週の土・日曜日に、日本語教授法について経験豊富なボランティアに講師となってもらい、自主的な勉強会を開催している。</p>	<p>◇開催回数=月2回</p>

No. 8 外国人市民の互助体制をつくる

外



外国人市民の中には、国際化・多文化共生のために、具体的にやりたいこと、貢献できそうなこととして、「日本語が分からない同国人の力になりたい」「来日した同郷人の相談窓口になる(日本語、各種手続きの方法、日本の習慣など)」を挙げている人がいました。異国の地における同郷人とのネットワークは、安心して暮らすために重要な役割を担うことができます。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取
組
み
内
容

- ① 外国人市民の有志と困っている外国人市民とをつなげるしくみをつくる
- ② 外国人市民同士の互助体制づくりを支援する



※特に実施しなかった。

No.9 日本や刈谷市の文化等を知る機会をつくる

外



本市では、刈谷市国際交流協会を中心に、お花見会、ボランティアによる日本文化紹介やホームステイの受け入れを行っています。今後とも、日本の文化や習慣を学ぶ機会を求める外国人市民は45%と一定のニーズがあるため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民が日本の文化や刈谷市について知る機会を充実させる
- ② 刈谷市の郷土資料を充実させ、多言語で紹介する



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. KIFAV文化交流グループによる日本文化の紹介 H.24-26…①</p> <p>◇市内・近隣地域在住の外国人や市内大学の留学生と、季節ごとの日本文化を通じた次のような交流活動を行っている。(主な活動例…折り紙や日本の伝統遊びを楽しもう、日本のお正月の過ごし方を体験、着物や浴衣の体験、日本の伝統料理を作ってみよう、刈谷のお祭り「万燈祭」を楽しもう)</p>	◇開催回数=10回/年
<p>2. KIFAV 日本語教室による日本の文化・刈谷の歴史紹介 H.24-26…①</p> <p>◇日本語教室の一環として、7～2月にかけて月1回程度、日本語教室に通う外国人が日本文化や歴史等にふれるイベントを開催している。</p>	◇開催回数=7回/年
<p>③ 「カキツバタパンフレット」の多言語化・無料配布 H.25-26…②</p> <p>◇国指定天然記念物である小堤西池のカキツバタ群落紹介パンフレットを、KIFAV 通訳翻訳グループの協力により、多言語版作成し、無料で配布している。</p>	

No.10 外国人市民への偏見・差別をなくす

日



外国人市民が感じる日本人の残念なところで最も多い意見は「外国人に対する偏見や差別」でした。刈谷市国際プラザの必要な機能も「外国人への差別や偏見をなくすように日本人へ意識啓発をすすめる」59%と最も高くなっています。一部の外国人による犯罪や騒動をもとに偏見を持ち、例えば外国人お断り賃貸住宅など具体的な行動となって差別を生んでいます。そうした偏見・差別をなくし、外国人の人権を守る刈谷市をつくるために、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民との心暖まる話などプラスの情報を積極的に発信する：■
- ② 外国人市民の置かれている人権状況を把握し、市民と共有する：■
- ③ 外国人の住宅入居に対するサポートを行う



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. アンケートで集まった心暖まる話を計画書に掲載し配布 H.24-…① ◇十分に積極的な発信とは言えないが、平成22年度に実施した市民・市職員アンケートで集めた「自分が体験した外国人との心暖まる関わりや出来事」を整理して、計画書資料編P.81に掲載し、配布したり、刈谷市ウェブサイトに掲載した。</p>	
<p>2. かわら版 KARIYA GLOBAL LETTER の発行・配布 H.25-26…① ◇3つの重点協働プロジェクト「モデル地域・学区プロジェクト」、「学校ESDプロジェクト」、地球市民拠点プロジェクト」の様子や成果を、かわら版にまとめて、公共施設での配布、市ウェブサイトへの掲載、個別配布を行い、より良い関係の事例として発信した。</p>	<p>◇発行数=10号 ◇発行部数=原則1,000部 (一ツ木町配布の場合5,000部)</p>
<p>3. 外国人相談員による相談事業<再掲> H.24-26…③ ◇市役所市民安全課に、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語に対応した外国人相談員を置き、外国人からの相談事業を行った。</p>	<p>◇住居に関する相談件数(H.25) = 533件</p>

No.11 外国人も住みやすいまちをつくり、アピールする

外



外国人のニーズを把握し住みやすいまちをつくることは、誰もが住みやすいまちづくりにつながります。また、多様な外国人が共に暮らし、多様な視点から共にまちづくりをすすめることは、地域の活性化につながります。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取
組
み
内
容

- ① 外国人も住みたくなるユニバーサルなまちづくりをすすめる
- ② 刈谷の魅力を外国人にアピールする機会をつくる

























第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 国際化・多文化共生推進計画に基づく外国人向けサービス H.24-26…① ◇本点検表に挙げた外国人向けに実施されている内容(サービス)自体が、ユニバーサルなまちづくりの一步一步である。</p>	<p>◇外国人と地域で共生して暮らしていると思う市民の割合(H.25) = 45.3% → 目標 H.32 = 45%</p>

7

「公共施設・機会」の取り組み施策の今後の課題

第1期に実施した取り組み内容を踏まえた、取り組み施策の今後の課題は下表のとおりです。

取り組み施策	達成度	今後の課題
No.1 公共サービスの外国人市民対応化をすすめる	 	【取り組めていない内容】 ③ ピクトグラム・やさしい日本語などユニバーサルな案内表示を充実させる 【今後の課題】 ◇ 外国人が利用する窓口等の多言語化・やさしい日本語による全庁的なサービスのあり方の検討と共有
No.2 国際化・多文化共生の拠点をつくり、最大限に活かす	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 ◇ 国際プラザの認知向上、利活用の促進 ◇ フィリピン人・中国人・ブラジル人の利活用、プログラムへの参加・参画促進
No.3 外国人市民向けサービス・情報提供を充実させる	 	【取り組めていない内容】 ③ 外国人市民に届きやすい媒体・ネットワークによる情報提供のしくみをつくる 【今後の課題】 ◇ インターネットなどアクセスしやすい情報提供の充実 ◇ 外国人に関わるキーパーソン、関係団体との連携による情報提供のしくみづくり
No.4 防災と災害時のサポートをすすめる	 	【取り組めていない内容】 ③ 災害発生時に多言語による必要な情報共有のしくみを作る 【今後の課題】 ◇ 県や関連団体・NPOの広域的サービスの周知・連携 ◇ 居住地域ごとの防災の取り組みへの外国人の参加促進
No.5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる	 	【取り組めていない内容】 ③ 外国人市民のまちづくりコーディネーターを養成する 【今後の課題】 ◇ 外国人キーパーソンの発掘とコーディネーターの養成 ◇ より主体的な外国人によるまちづくりにつながる話し合い、活躍の機会の創出
No.6 様々な国の人や文化と出会える場・機会をつくる	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 なし

<p>No.7 日本語学習をすすめる</p>	 	<p>【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 ◇ 地域別開催などよりきめ細やかな日本語学習の推進 ◇ 日本語能力に応じた日本語ボランティアの育成</p>
<p>No.8 外国人市民の互助体制をつくる</p>	 	<p>【取り組めていない内容】 ① 外国人市民の有志と困っている外国人市民とをつなげるしくみをつくる ② 外国人市民同士の互助体制づくりを支援する 【今後の課題】 ◇ 貢献したいと考えている外国人の発掘と機会提供 ◇ 外国人互助組織のニーズ把握と必要に応じた組織づくりの支援</p>
<p>No.9 日本や刈谷市の文化等を知る機会をつくる</p>	 	<p>【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 なし</p>
<p>No.10 外国人市民への偏見・差別をなくす</p>	 	<p>【取り組めていない内容】 ② 外国人市民の置かれている人権状況を把握し、市民と共有する 【今後の課題】 ◇ 根強い外国人への偏見、排除などの差別の改善</p>
<p>No.11 外国人も住みやすいまちをつくり、アピールする</p>	 	<p>【取り組めていない内容】 ② 刈谷の魅力外国人にアピールする機会をつくる 【今後の課題】 ◇ 庁内における外国人の視点に入れたまちづくりのユニバーサル化のあり方の検討・共有 ◇ 外国人にとっての刈谷の魅力の発見とアピール</p>

8

「企業・職場」の取り組み施策の実績

No.1 企業の国際化・多文化共生への社会貢献をすすめる

全他



本市の特徴は、企業城下町であり、「グローバルなものづくりのまち刈谷」です。そのため本市の多くの企業にとって、国際化や多文化共生は、企業活動に密接に関係しています。一方、本市では、自動車関連企業による「環境」や「福祉」をテーマとした社会貢献活動が進んでいます。これらの2つの条件を考え合わせ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 地域のニーズに応じた企業の国際化・多文化共生事業をすすめる：☑
- ② 企業が連携した社会貢献活動をすすめる：☑
- ③ 企業の海外拠点、海外経験を活かした貢献をすすめる
- ④ 企業の社会貢献活動に対する表彰や市民に対する情報提供を行う



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
1. WAFCAによる国際貢献 H.24-26…③ ◇車いすや奨学金の寄贈を通じて、アジアに暮らす障害者の自立を支えている市内NGOのWAFCAは、連携する企業の海外拠点、技術を生かした国際貢献を進めている。	◇タイ東北地方障害児奨学金支援 H24…15 県 192 名、H25…15 県 216 名 ◇車いす寄贈:H24…タイ 225 台、中国 150 台 H25…タイ 278 台、中国 47 台
※その他、個別の企業では、取り組まれていると思われるが、現状把握や「施策」的な取り組みは行われていない。	

No.2 外国人社員に対するサポートを充実させる

外



多くの外国人社員にとって、企業・職場が日本での生活の起点となっており、個人的に情報やネットワークがない場合は、日本での生活について相談できる重要な場となっています。また、仕事をすすめるうえで知識や言葉を学ぶのも企業・職場です。大企業では比較的そのサポートが充実していますが、中小企業ではこれからの所が多くあります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 日本語学習やコミュニケーション支援を行う企業を増やす
- ② 外国人市民向けの研修などスキルアップの機会を持つ企業を増やす
- ③ 刈谷市で暮らすための生活サポートを行う企業を増やす
- ④ 大企業の取り組みを中小企業にも波及させる
- ⑤ 良い事例を集めて、他の企業に応用できるようにする



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
1. 外国人雇用適正化セミナー H.26…④⑤ ◇平成27年2月に、4県1市(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、名古屋市)と共同で開催した。	◇参加者数=106人
※その他、個別の企業では、取り組まれていると思われるが、現状把握や「施策」的な取り組みは行われていない。	

No.3 働く人が地域や世界につながる機会をつくる

全



本市には、日系ブラジル人や日系フィリピン人など日系の外国人、海外展開している企業の人事交流により来日した外国人、研修制度を利用したアジア系の外国人など、様々な国・立場の外国人が就労しています。また、企業の海外拠点での生活経験がある日本人社員やその家族も多くなります。このように、本市は企業の人的資源で世界とつながる潜在的な可能性が高いまちとなっています。例えば、本市の外国人研修生を受け入れている研修機関や企業では、研修寮がある地域の清掃を行う活動を行っており、外国人が地域につながり、地域が世界とつながっています。こうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人社員が地域と交流し、貢献する企業を増やす
- ② 海外駐在経験のある日本人社員が貢献するしくみと機会をつくる：[重]
- ③ 社員の地域ボランティアをすすめる企業を増やす
- ④ 職場で、多文化を体験、理解する機会をつくる



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
1. 外国人従業員による地域清掃参加 H.24-26…① ◇一ツ木地区にある企業が、外国人従業員の地域清掃への参加を進めている。	
2. 一ツ木地区外国人向けイベントへの協力 H.25-26…① ◇一ツ木地区周辺の企業が、一ツ木地区で行ったワールド持ち寄りパーティー、外国人向け防災講座について外国人従業員に周知、参加を促してくれたことにより、多くの外国人の参加につながった。	
3. KIFA親善ボランティアの登録制度 H.24-26…② ◇KIFA親善ボランティアの中には、海外駐在経験のある日本人社員も多く登録しており、国際化・多文化共生に貢献する受け皿となっている。	◇KIFAV登録者数(H.26) = 237人
4. トヨタグループ各社の従業員ボランティア活動促進 H.24-26…②③ ◇刈谷市内に多く所在・活動しているトヨタグループ各社は、従業員のボランティア活動の推進を図るためトヨタボランティアセンターを設置し、スマイルゆうネットでボランティア情報を提供したりしている。	

No.4 外国人市民の安定した就業をサポートする

外



平成20年（2008年）のいわゆるリーマンショック以降、外国人の雇用環境の悪化が進み、帰国を余儀なくされた外国人が多くいます。現在本市にいる外国人市民が不幸せの要素としては「就業状況（仕事の有無・安定）」が41%と最も高く、暮らしに必要とする情報の6位は「仕事に就くための情報」37%（フィリピン人に限ると53%=2位）となっています。就業していても非正規雇用の場合が多く、日本での幸せな生活のためには、安定した就業が不可欠です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 外国人市民の能力を活かした就業支援を充実させる
- ② 正規雇用化など安定した就業に向けて企業や国に働きかける



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
<p>1. 外国人雇用適正化セミナー H.26<再掲>…①② ◇平成27年2月に、4県1市(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、名古屋市)と共同で開催した。</p>	<p>◇参加者数=106人</p>
<p>2. JICE:日系人就業準備研修「仕事で使える!実践日本語」H.24-26…① ◇日本国際協力センターが、安定的な就労をめざす日系人を対象に国際プラザ等で次のとおり日本語講座を開講している。(H.25 開講…<レベル1>10/1~11/26平日終日、<レベル2>12/1~2/5平日終日、研修時間 90~132時間) ※レベル1:初めて日本語を勉強する人、ひらがな・カタカナが苦手な人 ※レベル2:ひらがな・カタカナの読み書きができ、日本語の会話が少しできる人</p>	<p>◇開講数=年2回(レベル別) ◇受講外国人数(H25・H26) H25=29人 H26=31人</p>
<p>3. 刈谷市外国人職業相談センター H.24-26…① ◇同センターでは、通訳を配置し、外国人求職者を対象とした職業相談、職業紹介を行っている。</p>	

No.5 多様性を活かした人権尊重の職場づくりをすすめる

外日



人種、性別、年齢、個性などあらゆる多様性を積極的に受け入れることで成長につなげようという考え方である「ダイバシティ」は、適材適所によってそれぞれの能力が最大限に発揮されれば、多様な視点で問題解決に臨めたり、既存の慣習や概念にとらわれない斬新なアイデアを創出できたりと、多くの効果が期待されています。その必要条件として、社員が先入観や偏見を持たず多様性を受け入れることが求められます。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 属性によらない適材適所で公正な人事をすすめる企業を増やす
- ② 社員に対する人権教育をすすめる企業を増やす
- ③ 多様性を取り入れた企業の成功例を紹介する



実施されている内容(事業名、取り組み状況)	実績等データ
<p>1. 外国人雇用適正化セミナー H.26<再掲>…①②</p> <p>◇平成27年2月に、4県1市(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、名古屋市)と共同で開催した。</p>	◇参加者数=106人
<p>※その他、個別の企業・職場では、取り組まれていると思われるが、現状把握や「施策」的な取り組みは行われていない。</p>	

9

「企業・職場」の取り組み施策の今後の課題

第1期に実施した取り組み内容を踏まえた、取り組み施策の今後の課題は下表のとおりです。

取り組み施策	達成度	今後の課題
<p>No.1 企業の国際化・多文化共生への社会貢献をすすめる</p>		<p>【取り組めていない内容】 (不明)</p> <p>④ 企業の社会貢献活動に対する表彰や市民に対する情報提供を行う</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇ 企業の取り組み実態の把握</p>
<p>No.2 外国人社員に対するサポートを充実させる</p>		<p>【取り組めていない内容】 (不明)</p> <p>⑤ 良い事例を集めて、他の企業に応用できるようにする</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇ 企業の取り組み実態の把握</p>
<p>No.3 働く人が地域や世界につながる機会をつくる</p>		<p>【取り組めていない内容】</p> <p>④ 職場で、多文化を体験、理解する機会をつくる</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇ 企業の取り組み実態の把握</p>
<p>No.4 外国人市民の安定した就業をサポートする</p>		<p>【取り組めていない内容】 なし</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇ 企業の取り組み実態の把握</p>
<p>No.5 多様性を活かした人権尊重の職場づくりをすすめる</p>		<p>【取り組めていない内容】 (不明)</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇ 企業の取り組み実態の把握</p>

10

「地球規模」の取り組み施策の実績

No.1 世界の状況や課題について知る機会をつくる

全



世界のグローバル化によって、先進国の私たちは、食料・資源・情報・経済など様々な分野で恩恵を受けています。しかし、経済至上主義、自由競争の激化によって、世界の格差はますます開き、地球規模の環境問題が深刻さを増し、このままでは地球の持続可能性が危ぶまれます。もはや一国だけでは成り立たない世界規模で相互につながりある世界にあって、持続可能な世界を目指すためには、貧困や環境問題への早急な対応が求められます。そのためにまずは、世界は今日のような状況にあるのかを知ることが重要であることから、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 生涯学習を担う関係主体から世界の状況や課題について情報発信する
- ② 様々な場や機会に、世界の課題についてまなび考える機会をつくる：■
- ③ 海外に長期滞在した経験のある市民の知識・情報を活かす：■



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. KIFA: 国際理解講座～世界をのぞこう！H.24-26<再掲>…①②③</p> <p>◇市内在住在勤の JICA 青年海外協力隊 OB・OG を招いて、滞在国の文化や生活の他に、協力隊として支援する国の課題についても学び、考える機会となっている。(取りあげた国…インドネシア、ヨルダン、ネパール、ザンビア、ジンバブエ、セントルシア、ガーナ、ポーランド、フィリピン、エクアドル、コロンビア)</p>	<p>◇開催回数(H.24-26) = 11回</p> <p>◇参加人数(H.25 計) = 79人</p>
<p>2. グローカル・カレッジ in KARIYA H.24-26<再掲>…①②</p> <p>◇グローバル・カレッジのうち次の講座で、世界の課題を考える機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H.24 第2回 学校時間割風 異文化おもしろワークショップ ・H.24 第3回 つながりに気づき地球市民の絆を築く方法 ・H.25 第3回 ワイヤーアートから世界を知ろう！ ・H.25 第4回 誰でもできる国際貢献！わたしと世界がつながるフェアトレード ・H.26 第2回 ESD えっ?!それならできるよ！～地球のHAPPYな未来のために 	<p>◇グロカレ開催数(H.24-26) 13回のうち、世界の課題について考える機会のあった講座数=5回</p> <p>◇参加人数(5回分) = 188人</p>
<p>3. 姉妹都市カナダ・ミササガ市訪問体験談 H.24…①</p> <p>◇国際プラザオープニングイベントにおいて、これまでにミササガ市に派遣された市民による多文化共生が進んでいるまちについての体験談が披露された。</p>	<p>◇開催回数=1回</p> <p>◇体験発表者数=8人</p>

No.2 人どうしの国際交流をすすめる

全



本市は、カナダのミササガ市との姉妹都市提携をベースに、ミササガ市民団受入（ホームステイ）、交換学生派遣（カナダ・トロント市の日本語学校の生徒宅でのホームステイ）、市民海外派遣（ミササガ市でのホームステイ）など人どうしの国際交流を行ってきました。刈谷市国際交流協会でも、愛知教育大学の留学生など外国人と交流する「国際交流フェスタ」、ボランティアによるホームステイの受入も行われています。また、インターネットの発達により、SNS[※]やテレビ電話による外国との交流も手軽にできるようになっています。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① ホームステイ・ビジットなど留学生や研修生との交流を充実させる
- ② 海外への留学やホームステイの機会や情報を充実させる
- ③ インターネットやテレビ電話などICT[※]を活用した海外との交流をすすめる

※ SNS：Social Networking Service の略。人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイト。

※ ICT：Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する技術一般の総称。





第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 青少年交流事業「JENESYS2.0」ホームステイの受入 H.25…①</p> <p>◇アジア大洋州諸国及び地域との間で外務省青少年交流事業「JENESYS2.0」に係る〇〇国からの来訪者のホームステイ受入について、KIFAV ホストファミリーボランティアの協力を行った。</p>	<p>◇ホームステイ受入数(H.26)=2人 (インド人、今後も増加の可能性あり)</p>
<p>2. KIFAV:国際交流フェスタ in KARIYA H.24-26<再掲>…①</p> <p>◇KIFAV、市民ボランティア、刈谷北高校生と近隣在住の外国人(留学生、研修生など)が一緒になり、いろいろな国の歌やダンスの発表、文化紹介で交流するイベントを毎年度開催している。</p>	<p>◇開催回数=1回/年 ◇参加人数(H.25)=約280人</p>
<p>3. ミサカガ市民団受入 H.25…①</p> <p>◇4月の9日間、姉妹都市ミササガ市から8人の市民団を受け入れた。滞在中は、ホームステイでの生活体験や公式行事等を通して刈谷市民と親善交流を深めた。</p>	<p>◇受入回数=隔年に1回 ◇受入人数(H.25)=8人</p>
<p>4. カナダ・ストリートホッケー団受入 H.24…①</p> <p>◇11月の6日間、カナダから9人のストリートホッケー団を受け入れた。滞在中は、小学校訪問やミササガパークでのスポーツ交流を行い、ホームステイでの生活体験や市内見学などの行事を通して刈谷市民と親善交流を深めた。</p>	<p>◇受入回数=1回 ◇受入人数=9人</p>
<p>5. KIFA:ミササガ市民派遣事業 H.24-26…②</p> <p>◇協会会員から派遣市民を公募し、7月上旬にミササガ市へ約1週間派遣し、次のような交流を行っている。(主な内容…派遣市民による日本文化紹介、施設見学など様々な公式行事への参加、ホームステイでの生活体験、交流)</p>	<p>◇派遣回数=1回/年(約1週間) ◇派遣人数=8人/回</p>

<p>6. KIFA:ミササガ市訪問支援(補助金交付) H.24-26…②</p> <p>◇姉妹都市交流促進の一環として、市内在住・在勤・在学の市民が、友好親善を主眼としたミササガ市訪問を行う場合、補助金を交付している(1人に1万円)。</p>	<p>◇交付件数(H.25) = 2件</p> <p>◇交付人数(H.25) = 15人</p>
--	--

No.3 地球市民意識を育てる機会をつくる 全 

この地球上では、現在約70億の人間が同じ時を共に生き、約3,000万種の動植物からなる絶妙なバランスの上に成り立つ地球の生態系の中で生かされています。しかし、世界は、「環境」と「貧困」という2つの大きな問題を抱え、グローバル化により国を越えて影響を及ぼしあっています。私たちは「宇宙船地球号」に乗り合わせる「運命共同体」であり、国境にとらわれず課題を解決し、よりよい未来をめざす「地球市民」という意識を持つことが重要です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 「地球市民」の意味、世界と自分とのつながりを知る機会をつくる： 
- ② ESD^{*}を学校教育や生涯学習の場での実践する機会を充実させる： 

※ ESD：平成14年(2002年)のヨハネスブルグサミットで、日本が提案した持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)の略称で、「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」ことです。文部科学省においては「持続発展教育」と称されています。



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. グローカル・カレッジ in KARIYA H.24-26<再掲>…①②</p> <p>◇グローカル・カレッジのうち次の講座で、地球市民意識を育てる機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H.24 第3回 つながりに気づき地球市民の絆を築く方法 ・H.25 第3回 ワイヤーアートから世界を知ろう！ ・H.25 第4回 誰でもできる国際貢献！わたしと世界がつながるフェアトレード ・H.26 第2回 ESD えっ?!それならできるよ！～地球のHAPPYな未来のために 	<p>◇グロカレ開催数(H.24-26)13回のうち、地球市民意識を育てる機会のあった講座数=4回</p> <p>◇参加人数(4回分)=164人</p>
<p>2. 刈谷北高校学校ESDプロジェクト出前授業 H.24-26<再掲>…①②</p> <p>◇出前授業のうち主に次の回で地球市民意識を育てる機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H.24 第1回 つながりに気づく～わたしもあなたも世界の一部～ ・H.25 第1回 世界を俯瞰する！～グローバル化の恩恵と課題～ ・H.25 第2回 不公平な世界！？～グローバル・イシューなぜ問題？～ ・H.26 第3回 願うだけの平和から1歩前へ踏み出すプロジェクト 	<p>◇3年間の実施回数8回のうち地球市民意識を育てる機会のあった回数=4回</p> <p>◇授業を受けた生徒数=約20人</p> <p>◇自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった生徒数(H.25)=8人</p>

No.4 市民が身近にできる国際協力を広める

全



地球規模での共生は、私たち一人ひとりが、身近なところで始めることができます。例えば、募金や寄附を通じた国際協力活動への支援やフェアトレード[※]などの消費活動を通じた国際協力など、身近にできる国際協力の方法は多様にあり、そうした活動を刈谷市で広めることが大切です。そのため、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 募金や寄附など市民が身近にできる国際協力の方法を知らせる：☑
- ② エシカルコンシューマー[※]について知り、広める機会や場をつくる：☑
- ③ 国際協力の必要性和国際協力活動の情報を提供する：☑



第1期に実施した内容	実績等データ
1. KIFA:国際プラザにおける募金活動 H.24-26…①③ ◇国際プラザにユニセフ外国コイン募金用の案内と回収ボックスを置いている。 ◇フィリピン台風救援のために、特別に募金箱を設置し、集まった募金は日本赤十字社に寄付した。	◇外国コイン募金額(H.26 精算) = 7,366 円 ◇フィリピン台風支援寄付額=17,033 円
2. 刈谷市民ボランティア活動センター:身近な国際協力 H.25-26…①③ ◇刈谷市民ボランティア活動センターにおいて、書き損じはがきやペットボトルのキャップ集めなどの国際協力方法の周知と回収を行っている。	◇回収量(H.25) ・書き損じはがき=153枚 ・エコキャップ=116.5Kg
3. グローカル・カレッジ in KARIYA H.24-26<再掲>…①②③ ◇グローカル・カレッジの講座で、市民が身近にできる国際協力の方法について広め、実際にフェアトレードの商品を食べたり、購入したりする機会も設けた。	◇グロカレ開催数(H.24-26)13回のうち、身近にできる国際協力を扱った講座数=3回
4. バレンタイン一揆の上映 H.26…①②③ ◇刈谷北高校がグローカル・カレッジの一環で、チョコレート原料のカカオ豆の生産実態とフェアトレードの必要性を表した映画を上映した。	◇上映回数=1回 ◇観客数=70人
5. 国際協力機構(JICA中部)の情報提供・協働 H.24-26…①③ ◇国際プラザ内に、JICA中部からのお知らせ用のラックを置いている。 ◇刈谷市側のグローカル・カレッジ、JICA側のエッセイコンテスト表彰式など相互に協力があった。	
6. KIFA:フェアトレード商品の販売 H.25-26…② ◇国際協力NGOが開発したフェアトレード商品を、国際プラザで販売している。	◇フェアトレード商品種類=6種類
7. 一ツ木町でのフィリピンイベントでのバザー・募金 H.26…① ◇フィリピン台風救援および子どもの支援のため、フィリピンイベントに合わせてバザーや募金を行い、フィリピンを支援するNGOへ寄付した。	◇フィリピン支援寄付額=23,473 円

No.5 学び高めあう都市間交流をすすめる

他



本市は、昭和56年（1981年）7月、カナダのミササガ市と姉妹都市提携し、それ以降、ミササガ市民団受入事業（表敬訪問、市内施設見学、県外見学、ボランティアによる日本文化体験交流会）、交換学生派遣事業（表敬訪問、市内見学等）、市民派遣事業（表敬訪問、日本文化紹介等）を継続し友好関係を築いてきました。一方で、都市間交流のあり方として、二都市間交流から、テーマに沿った緩やかな複数都市間ネットワークづくりをめざすフレンドリーシティ交流の潮流があります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① より良い姉妹都市提携*について考え、充実させる
- ② テーマ性をもった複数都市間ネットワークをつくる（入る）
- ③ 国際的なイベントを通じた交流と刈谷の魅力の発信を行う

※ 刈谷の高校生が考えた「良い姉妹都市提携」：「市民が参加しやすい企画」「お互いに利益がある」「幅広い年齢層が参加する」「広く広報される」「市民一人ひとりが姉妹都市意識をもてる」「文化の融合、新しい文化の創造」「子どもの視点を大切に」「環境などのグローバルイシューに取り組む」「スポーツ、音楽、芸術など言葉の壁のない交流をする」「技術や情報などお互いの良いところを共有できる」「日常の暮らしに焦点をあてる」「学んだことを次に生かしていく」。



第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. ミササガ市との姉妹都市提携に伴う交流 H.24-26<再掲>…(①)</p> <p>◇姉妹都市提携後、市民派遣事業（毎年度）、ミササガ市民団受入（隔年度）、国際プラザにおけるプレゼント記念品の展示、ニュースレターの交換、ミササガパークの整備などを行っている。</p>	<p>◇市民派遣数=8人/回</p> <p>◇ミササガ市民団受入人数=8人/回</p>
<p>2. 愛知万博フレンドシップ国に伴う交流 H.24-26<再掲>…(①)</p> <p>◇愛知万博フレンドシップ国にマッチングされた後、インドおよびカナダと次の交流を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インド…ナマステ・インディア in KARIYA の開催（毎年度） ・カナダ…ストリートホッケー体験交流会 	<p>◇参加者数（H.26）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナマステ・インディア=約2,200人 ・ストリートホッケー体験交流会=約50人
<p>3. カナダ児童絵画コンテストと表彰式 H.24…①</p> <p>◇在名古屋カナダ領事館開館20周年を記念して、領事館とKIFAが協働し、市内小学生による「カナダ」をテーマにした絵画を募集した。応募作品を国際プラザで展示し、表彰を行った。</p>	<p>◇絵画応募作品数=122点</p>
<p>4. ESD世界会議プレイベントにおける事例発表 H.26…③</p> <p>◇ESD世界会議プレイベントにおいて、本市の学校ESDプロジェクトの取組を刈谷北高校教師と一緒に発表した。</p>	

No.6 市や企業による国際協力をすすめる

他



本市には、国際協力をすすめるNGO/NPO※があり、企業が海外拠点および人的・経済的資源を活かし、その設立と運営を支援しています。地方自治体レベルでも、例えば、消防署が途上国に対し救急活動研修を行うなど、持っている資源を活かした国際協力が行われています。また、地球温暖化対策など地球規模の課題については、刈谷市における活動をすすめることで、貢献できることが多くあります。そうした状況を踏まえ、次のような取り組みをすすめます。

取り組み内容

- ① 市や企業の人的・技術的・経済的資源を活かした国際協力を行う
- ② 海外拠点および各種資源を活かした国際協力をすすめる企業を増やす
- ③ 地球規模の課題に対応する刈谷市における持続可能な発展について模索する

※ NGO/NPO：NGOは Non-Governmental Organization の略。もともとは国連で使われ始めた用語で、政府の代表ではない民間団体を意味している。NPOは Non-Profit Organization の略。広義では非営利団体のこと。狭義では、非営利での社会貢献活動や慈善活動を行う市民団体のこと。







第1期に実施した内容	実績等データ
<p>1. 市役所食堂におけるテーブル・フォー・ツー(TFT) H.25-26…①</p> <p>◇刈谷市役所の食堂運営事業会社が、TFTのプログラムに参加し、500円のヘルシーメニューを開発・提供し、うち20円を寄付した。</p> <p>◇TFTとは、肥満と飢餓という、現在の世界が抱える食の課題を解消するため、先進国の人々に、ヘルシーメニューを推奨しつつ、発展途上国の子どもたちへの学校給食を支援するという、日本発の社会事業である。</p>	<p>◇実施時期＝年間8週間(3、6、9、12月)</p> <p>◇1日あたり提供数＝60～70食</p>
<p>2. WAFCAとの連携 H.25-26…①</p> <p>◇車いすや奨学金の寄贈を通じて、アジアに暮らす障害者の自立を支えている市内NGOのWAFCAが、地球市民拠点プロジェクトに参加し、連携した講座を開催したり、プロジェクトメンバーとして活躍している。</p>	
<p>3. 刈谷市環境都市アクションプランの実現 H.24-26…③</p> <p>◇平成22年度に「刈谷市環境都市アクションプラン」を策定し、市民・事業者・大学・行政が連携・協力し、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出の少ない低炭素型のまちづくりを進め、持続可能で快適な「環境都市」を実現することをめざしている。</p>	<p>◇CO₂削減目標(挑戦目標)＝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年＝2008年度比28%減 ・2050年＝2008年度比80%減

11

「地球規模」の取り組み施策の今後の課題

第1期に実施した取り組み内容を踏まえた、取り組み施策の今後の課題は下表のとおりです。

取り組み施策	達成度	今後の課題
No.1 世界の状況や課題について知る機会をつくる	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 なし
No.2 人どうしの国際交流をすすめる	 	【取り組めていない内容】 ③ インターネットやテレビ電話などICTを活用した海外との交流をすすめる 【今後の課題】 なし
No.3 地球市民意識を育てる機会をつくる	 	【取り組めていない内容】 なし 【今後の課題】 ◇ 各プロジェクトの市民や学校による継続的な実施
No.4 市民が身近にできる国際協力を広める	 	【取り組めていない内容】 なし ① 未就学、不登校の子どもを把握し、就学・登校に向けて支援を行う 【今後の課題】 ◇ エシカルコンシューマーのPRとその1つであるフェアトレード商品の刈谷市での普及
No.5 学び高めあう都市間交流をすすめる	 	【取り組めていない内容】 ① より良い姉妹都市提携について考え、充実させる ② テーマ性をもった複数都市間ネットワークをつくる（入る） 【今後の課題】 ◇ より良い姉妹都市（フレンドシップ国を含む）交流のあり方の検討
No.6 市や企業による国際協力をすすめる	 	【取り組めていない内容】 ② 海外拠点および各種資源を活かした国際協力をすすめる企業を増やす 【今後の課題】 ◇ 市による国際協力の可能性についての検討

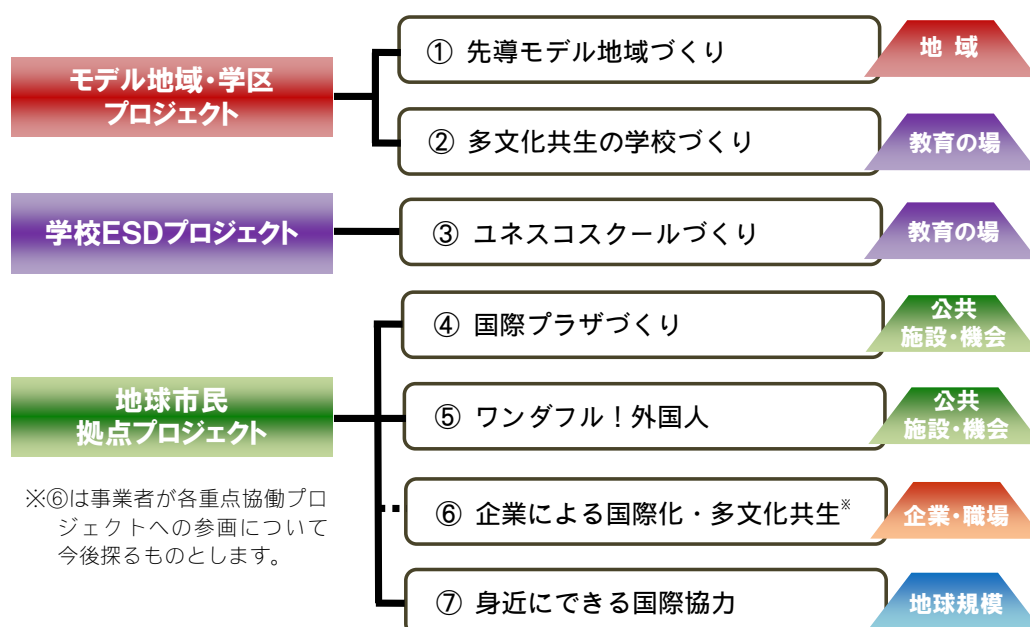
第4章

第1期重点協働プロジェクトの総括 3つの重点協働プロジェクトの成果と課題はなにか。

1 点検方法

計画に定められた第1期重点協働プロジェクトは以下のとおりです。

● 第1期重点協働プロジェクト ●



上記3つの重点協働プロジェクトのそれぞれについて、平成24～26年度の各年度の実施内容、成果と課題を明らかにし、第1期3年間の総括として、重点協働プロジェクトに定めた取り組み施策のうち取り組めたこと、取り組めなかったことを踏まえ、今後のに向けた総括と展望を記しました。

2 モデル地域・学区プロジェクトの総括

① 計画記載のプロジェクトの考え方

1 先導モデル地域づくりプログラム

◇ 外国人市民居住人数が多い一ツ木地区をリーディングモデルとして、「地域」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

- ◇ その際、地域における国際化・多文化共生に関心と企画力を持つコーディネーター（個人または団体）が、地縁の活動とのつなぎ役になれるようにします。
- ◇ また、他の地域への波及に向けて、実践の経過、成果や課題を整理し、「事業展開の事例&マニュアル」冊子を作成します。

2 多文化共生の学校づくりプログラム

- ◇ 外国にルーツを持つ子どもが集中している学校を主な対象に、地域社会で支える多文化共生の学校づくりに向けて、「教育の場」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

② 取り組み内容と成果と課題（平成24年度）

● **内容** … ヒアリング、外国人住民アンケート調査

- ◇ 一ツ木地区の役員等（2回）、かりがね小学校（1回）へのヒアリングを実施
- ◇ 一ツ木町外国人住民（16歳以上全数279人／回収率24.3%）へのアンケートを実施



● **成果** … 外国人住民のまちづくりへの意向確認、一ツ木地区住民との協働の可能性確認

- ◇ アンケートから「現状では日本人と外国人の関係は一部に限られている」「多くの外国人が一ツ木町の人たちと交流したい」「多くの外国人は、計画に掲げた多文化共生のまちづくりに共感し、文化・体験・おしゃべりなどの交流ができるとよいと思っている」ことがわかった。
- ◇ 一ツ木地区においては、話し合いの結果、平成25年度以降の活動に対する理解と、プロジェクトに関わってもよいという複数の住民の可能性が得られた。

● **課題** … 「交流したい外国人との出会いづくり」「プロジェクトに関わる住民の確保」 「今後の活動に対する支援体制」

③ 取り組み内容と成果と課題（平成25年度）

● **内容** … プロジェクト会議、多文化サロン、 ワールド持ち寄りパーティー、住民への周知

- ◇ 「一ツ木多文化共生プロジェクト」の理解とイベント企画のためプロジェクト会議を6回実施
- ◇ 外国人住民の生の声を聞くために、アンケートで連絡先を記入してくれた方に呼びかけ、多文化サロン（ブラジル版、中国版、フィリピン版）、プレイベント交流会を実施



- ◇ プロジェクトの最初の企画として、「ワールド持ち寄りパーティー」を企画・実施
- ◇ 活動内容伝える「グローバルレター」を作成、全戸配布し地域住民へ周知
- ◇ 愛知県国際交流協会と協働で「多文化共生コミュニティガーデン」の勉強会・検討会を実施

● **成果** … プロジェクトの発足、外国人住民とのつながり、最初のイベントの実施、
プロジェクトの方向性確認

- ◇ 一ツ木地区役員OB・OGを中心に、プロジェクトチームが発足した。
- ◇ 多文化サロン等を通じて、一ツ木地区に住むブラジル人、中国人、フィリピン人との出会いづくりと意見交換ができた。
- ◇ プロジェクトとして初めて交流イベントを実施し、55名（うち外国人25名、日本人17名、住民スタッフ8名、事務局5名）の地域住民が関わるものとなり、よい成功体験となった。
- ◇ パーティー後のプロジェクト会議で今後に向けたビジョン（3年後→1年後）をメンバーで共有できた。
- ◇ 多文化共生コミュニティガーデンという新しい視点での活動により、プロジェクトに関わる住民が増えた。

● **課題** … 「年度後半の次へのステップの停滞」「より多くの地域外国人との出会いと交流」
「地域住民の認知度アップ」

④ 取り組み内容と成果と課題（平成26年度）

● **内容** … プロジェクト会議、フィリピンイベント、スポーツ&お正月イベント、
ワールド・スマイル・ガーデンの設置・整備、同実行委員会、夏のプチ収穫祭、
秋の収穫際、SNS発信講座

- ◇ イベント企画・準備のため、時にフィリピン人を加え、プロジェクト会議を9回実施
- ◇ フィリピン料理教室、持ち寄りパーティー、フィリピン理解クイズ、フィリピン文化交流、参加者同士の交流、台風被害支援チャリティーバザーをフィリピンイベントとして実施
- ◇ スポーツを交えた交流として初蹴りサッカー大会およびお正月文化体験として餅つきを実施
- ◇ ワールド・スマイル・ガーデン（以下「ワールデン」という）と名付けた多文化共生コミュニティガーデンの土地を確保し、10回にわたる実行委員会で検討したうえで、畑・花壇・広場を住民が中心となって整備
- ◇ 夏野菜の収穫、花壇づくり、食事交流を含むプチ収穫祭を実施
- ◇ 秋野菜の収穫、ワールデンの整備お披露目のために秋収穫際を実施
- ◇ 住民に活動を広めるため、メンバー自ら発信者となるためのSNS講座を実施



- **成果** … フィリピンイベントの企画・開催を通じた多くのフィリピン人とのつながり、
ワールド・スマイル・ガーデンの整備、イベントの定例開催化

- ◇ 平成25年度後半のプロジェクト会議で確認した今後のビジョンに沿ったフィリピンイベントを行い、67名（うちフィリピン人25名、その他の外国人2名、日本人21名、住民スタッフ14名、事務局5名）が参加し、出会い、交流できた。その活動を通じて、会議やイベントに参加したフィリピン人とのつながりができた。
- ◇ ワールド・スマイル・ガーデンを住民が中心となって整備し、8月に64名（うち外国人22名 [フィリピン、ブラジル、中国、韓国、スペイン]）が参加するプチ収穫祭、11月に100名（うち外国人35名 [中国、インドネシア、フィリピン、バングラデシュ、コロンビア]）が参加する収穫祭を開催でき、今後の展望が開けた。

- **課題** … 「外国人の継続的な関わり・参画」
「一ツ木多文化共生プロジェクトとワールドデン実行委のメンバー重複多忙化」

⑤ 総括と展望

● 取り組み施策実施の有無

- ◇ 本プロジェクトに関わる取り組み施策のうち、取り組めたもの、取り組めていないものは、以下のとおりです。

取り組めたもの	取り組めていないもの
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に交流する場・機会をつくる ・ 地域の情報を共有する ・ 地域の活動を共にすすめる ・ 互いの文化に出会い学ぶ機会をつくる ・ 地域に相談できる人をつくる ・ あいさつしあえるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの学校生活をサポートする ・ 子どもの保護者をサポートする ・ 地域社会で子どもをサポートする

● 全体総括と展望

- ◇ 各年度の成果と課題、取り組み施策実施の有無を踏まえた3年間の総括と展望は次のとおりです。

1. リーディングモデルとしての取り組み充実

ヒアリング、アンケート、多文化サロン、交流パーティー、特定国対象のイベント、地域でのチャリティー、多文化共生コミュニティガーデンなど様々な取り組みを地域住民の積極的な関わりにより実践でき、他の地域への波及に向けた良い事例になりつつある。

2. 外国人住民の「参加」から「参画」への過程

外国人住民が散住している本市は、集住都市と比べ外国人が組織されにくい。そうした中においてもイベント時には比較的多くの外国人住民が参加するようになってきている。今後は、イベントへの参加という「点」をつなげて企画への参画という「線」にしていく過程を経て、多様性を成長につなげたり、相談しあえる関係づくりができるようにしていくことが望まれる。

3. 2つの活動の統合

現在、市民館を拠点にイベントを行う「一ツ木多文化共生プロジェクト」と、コミュニティガーデンを拠点にした「ワールド・スマイル・ガーデン実行委員会」が並行して活動してきた。手段・内容が異なるが、双方の活動の目的は同じであり、活動メンバーの多くが重複していることから、今後は2つの活動を統合して、より効率的、効果的な運営をめざすことが望まれる。

4. 多文化共生の学校づくりプログラムへの発展

地域においては、まずは出会い、知り合うことから始めることが必要であったが、「点」を「線」にした後は、「線」を、学校、子ども、その保護者へ拡げ「面」にしていくことにつながっていけるとよい。

3 学校ESDプロジェクトの総括

① 計画記載のプロジェクトの考え方

③ ユネスコスクールづくりプログラム

- ◇ 国際化が進む世界の中で、国際的視野を持ち、共生していくためには、子どもの頃から多様な文化に出会い、それを受容する心を育てていくことが大切であり、学校はその担い手として、期待されています。そのため、「教育の場」および「地球規模」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

② 取り組み内容と成果と課題（平成24年度）

● **内容** … ヒアリング、プロジェクト会議、ESD出前授業（全3回）

- ◇ 愛知教育大学ユネスコスクール担当者へのヒアリングを実施

- ◇ 刈谷北高校と学校ESDプロジェクトについてのミーティング（3回）を実施
- ◇ 参加型の国際理解教育・ESDおよび生徒たちによるミササガ市スティーブン・ルイス校（姉妹校締結）との交流提案をまとめるため2時間×3回の出前授業を実施



- **成果** … ユネスコスクール登録活動充実、ESDに対する教員の意識化、学校と行政との協働
 - ◇ 平成22年度の「生徒によるカナダ・ミササガ国際理解教材づくり」、24年度の「生徒主体の姉妹校プロジェクトづくり」を通じて、刈谷北高校におけるユネスコスクール登録に向けた活動が充実した。
 - ◇ 会議及び出前授業を通して、参加型の国際理解教育・ESDの手法や進め方が教員の中で意識化された。
 - ◇ 学校と行政と信頼関係が生まれ、生徒がまちづくりに参画する機運が生まれた。
- **課題** … 「出前授業型から教師実践型への移行意識づけ」
 - 「生徒によるまちづくりに対する支援（場・機会の提供など）」

③ 取り組み内容と成果と課題（平成25年度）

- **内容** … プロジェクト会議、ESD出前授業（2回）、プロジェクトのPR
 - ◇ 刈谷北高校と学校ESDプロジェクトについてのミーティング（3回）を実施
 - ◇ 参加型の国際理解教育・ESDのモデル的な授業として、2時間×2回の出前授業を実施
 - ◇ 学校ESDプロジェクトに関するかわら版「グローバルレター」を作成し、国際プラザ、刈谷市ウェブサイト、JICA中部での企画展示などでPR
- **成果** … ユネスコスクール登録、モデル的なESD授業の提示、生徒のまちづくりへの参画
 - ◇ 刈谷北高校がユネスコスクールに登録された。
 - ◇ 2時限×3回（1回は台風で中止）のESD授業を企画し、教員も見学する中で実施し、生徒の国際理解や国際協力に対する意識のよりよい変化が見られた。（次ページ図参照）
 - ◇ 「グローバルレター」の作成、JICA中部での企画展示・発表を通じて、周りへのアピールもすることができた。
 - ◇ 地球市民拠点プロジェクトに学校セクターとして同校教師が参画し、第4回グローバル・カレッジでは同校生徒がフェアトレードを紹介するビデオ作成を行うなど、学校ぐるみのまちづくりへの参画が得られた。
 - ◇ 第1期終了後はESDの取り組みを学校独自で行う旨、刈谷市・刈谷北高校間で確認し、その素地を築くことができた。



- **課題** … 「ESD ユネスコ世界会議あいち・なごやとの関わり」

④ 取り組み内容と成果と課題（平成26年度）

- **内容** … プロジェクト会議、ESD出前授業（全3回）、
国際協力に関する映画の上映会

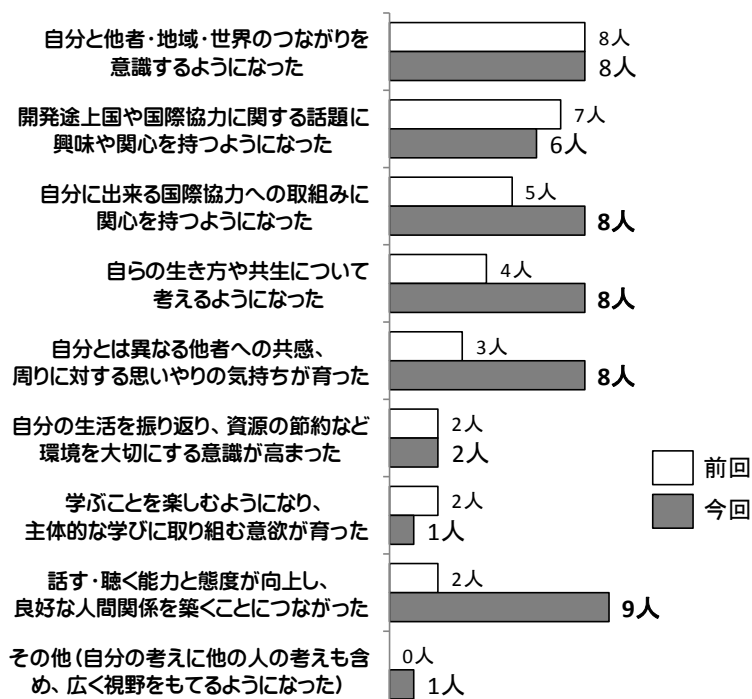
- ◇ 刈谷北高校と学校ESDプロジェクトについてのミーティング（1回）を実施
- ◇ 地球市民拠点プロジェクトのグローバル・カレッジの一環として、刈谷北高校、刈谷市、刈谷市国際交流協会が共催で、カカオ生産における児童労働について扱った「バレンタイン一揆」の上映会を実施
- ◇ ESD ユネスコ世界会議の関連イベント「あいちESDシンポジウム」で、刈谷市と刈谷北高校が連名で学校ESDプロジェクトを紹介
- ◇ 2時限×3回のESD出前授業（ステップアップ版）を企画し、教員も見学する中で実施



- **成果** … 学校・生徒のまちづくり、ESD ユネスコ世界会議関連イベントへの参画

- ◇ 刈谷北高校内に生徒による「ユネスコクラブ」が発足し、上述実施内容に挙げたことを始め、ESDに関するまちづくりに自主的に参画するようになった。
- ◇ 2時限×3回のESD授業ステップアップ版を企画し、教員も見学する中で実施し、前年度よりも生徒の意識のよりよい変化が見られた。（右図参照）

Q2 どのようなより良い変化がありましたか。【複数回答】



- **課題** … 特になし

⑤ 総括と展望

● 取り組み施策実施の有無

◇ 本プロジェクトに関わる取り組み施策のうち、取り組めたもの、取り組めていないものは、以下のとおりです。

取り組めたもの	取り組めていないもの
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる ・ 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる ・ 地球市民意識を育てる機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし

● 全体総括と展望

◇ 各年度の成果と課題、取り組み施策実施の有無を踏まえた3年間の総括と展望は次のとおりです。

1. ユネスコスクールとしての登録実現

学校との関係づくり、生徒主体の姉妹校プロジェクトづくりや参加型の国際理解教育・ESDの出前授業などを通して、学校における多様なESDの活動が実現し、刈谷北高校をユネスコスクールに登録することができた。

2. ESDに関する活動の定着とまちづくりへの参画

3年間にわたる学校ESDプロジェクトの実施を通して、生徒による「ユネスコクラブ」が発足し、ESD ユネスコ世界会議関連イベントへの参画、地球市民拠点プロジェクトへの参画など刈谷市が行っている国際化・多文化共生のまちづくりに関わるケースが出てきている。これは、学校でのESDに関する授業で地球市民意識が育まれた生徒が、まちづくりにつながる自主的なESD活動につながったよい波及効果であり、今後とも継続、発展させていくことが望まれる。

4 地球市民拠点プロジェクトの総括

① 計画記載のプロジェクトの考え方

4 国際プラザづくりプログラム

- ◇ 外国人市民へのアンケートでは、国際プラザについて「企画運営にも参画したい」という意見が20%と高く、運営への関心が高くなっています。そのため、市民（利用者）参画型で、「公共施設・機会」および「地球規模」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

5 ワンダフル！外国人プログラム

- ◇ 外国人の肯定的な情報発信、肯定的に出会う交流会など、「公共施設・機会」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

6 企業による国際化・多文化共生プログラム

- ◇ 関係主体と企業、企業間の対話をすすめて、「企業・職場」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

7 身近にできる国際協力プログラム

- ◇ フェアトレード、テーブルフオーツなど市民が身近にできる国際協力を広めるなど、「地球規模」における次の取り組み施策（略）について、関係主体と協働してプログラムを企画・立案し、実践します。

② 取り組み内容と成果と課題（平成24年度）

● **内容** … プロジェクト会議、グローバル・カレッジ（全5回）

- ◇ グローバル・カレッジの目標立てと全体企画を定め、各回の講座の詳細プログラムや準備を市民と行政で進めるため、プロジェクト会議を12回実施
- ◇ 国際プラザを活用した市民発案・市民と行政の協働によるグローバル・カレッジを実施
- ◇ 学校、企業・NPO、JICAが加わった多様なセクターによる新プロジェクト会議が発足



● **成果** … 参加者が多く満足度が高い内容、市民と行政の協働、多様な企画アイデアの蓄積

- ◇ 延べ242名（うち日本人121名、外国人75名、スタッフ46名）が参加し、参加者の満足度が98～100%と高い講座とすることができた。
- ◇ 市民と行政の協働の手応えが得られ、日本人と外国人がより良く知り合い交流する企画アイデアの蓄積ができた。

- 第1回：わくわく！おしゃべり系 お気楽！世界の味覚もちよりパーティー
- 第2回：ドキドキ！たいけん系 学校時間割風 異文化おもしろワークショップ
- 第3回：フムフム！まなび系 つなかりに気づき地球市民の絆を築く方法
- 第4回：ウキウキ！お出かけ系 刈谷のバスに乗って！ミニ畳を作る旅
- 第5回：ワイワイ！もりあがり系 レッツ・グローバル・パーティー！

◇ 平成24年度のプロジェクト目標に対するプロジェクトメンバーの評価は次のとおり。

- ① 国際理解が進む→○、② 外国人と日本人のより良い関係ができる→◎、③ 多文化共生活動の担い手が増える→○、④ 国際プラザの魅力が向上し来場者が増える→△、⑤ 満足度が高い→◎、⑥ よい取り組みが市外へ波及する→○

- **課題** …「市内在住外国人への周知方法の確保」「外国人の参画」「国際プラザの魅力向上」「企業による国際化・多文化共生」

③ 取り組み内容と成果と課題（平成25年度）

- **内容** … プロジェクト会議、グローバル・カレッジ（全4回）

- ◇ グローバル・カレッジの達成目標立てと全体企画のため、各回の講座の詳細プログラムや準備を市民と行政で進めるため、プロジェクト会議を10回実施
- ◇ 国際プラザを活用した市民発案・多様なセクター協働によるグローバル・カレッジを4回実施



- **成果** …満足度が高い内容、各セクターの加入・増員、関係団体との協働

- ◇ 延べ194名（うち日本人84名、外国人38名、スタッフ72名）が参加し、参加者の満足度が100%と高い講座とすることができた。
- ◇ 多様な企画アイデアとしては次のものが行われ、経験として蓄積された。

- 第1回：世界の味をつまみぐい！お気楽もちよりパーティー
- 第2回：刈谷をバスで小旅行
- 第3回：ワイヤーアートから世界を知ろう！
- 第4回：誰でもできる国際貢献！わたしと世界がつながるフェアトレード・パーティー！

- ◇ 平成25年度のプロジェクトに対するプロジェクトメンバーの評価は次のとおり。① 計画どおり4回実施できた、② 新しい取り組み（ワイヤーアート、フェアトレード）があった、③ 予想以上に多く参加してくれた、④ 参加した方から好評だった、⑤ 国際理解について楽しく学べた、⑥ プロジェクトのメンバーが広がり、充実した（ボランティア、高校、学生、関係団体など）、⑦ 関係団体（WAFCA、JICA、フェアトレード団体）と協働できた。

- **課題** …「市内在住外国人への周知方法の確保」「外国人の参画」「国際プラザの魅力向上」
「市民等による自主実施に向けたグローバル・カレッジの枠組み・条件の設計」

④ 取り組み内容と成果と課題（平成26年度）

- **内容** … プロジェクト会議、グローバル・カレッジ（全4回）

◇ グローバル・カレッジの達成目標立てと全体企画のため、各回の講座の詳細プログラムや準備を市民と行政で進めるため、194プロジェクト会議を11回実施

◇ 4つのチームに分かれて、企画案の検討や当日の準備を行うチーム会議も併せて実施

◇ グローバル・カレッジ企画の必須4要素を定め、それに基づく市民発案・多様なセクター協働によるグローバル・カレッジを4回実施



- **成果** …グローバル・カレッジ企画の必須4要素の指針化、外国人の参画による講座の企画、市民等による自主的実施の準備、外国人のプロジェクト会議メンバー化の予感

◇ プロジェクト会議でグローバル・カレッジの必須条件として次のことを確認し、それを実現する企画を検討するとともに、今後の指針とすることができた。

- ① 楽しく学び、課題に気づく場であること、
- ② 出会いがあり、つながりができること、
- ③ 地球規模の課題を解決し、誰かのため、未来のための行動（計画）につながること、
- ④ 国際プラザを最大限活用していること

◇ 延べ230名（うち日本人90名、外国人73名、スタッフ67名）が参加し、参加者の満足度が100%と高い講座とすることができた。

◇ 多様な企画アイデアとしては次のものが行われ、経験として蓄積された。

- 第1回：Let's 持ち寄りパーティー～出会い！知り合い！友達をつくろう！I♥KARIYA～
- 第2回：E えっ?! S それなら D できるよ！～地球のHAPPYな未来のために～
- 第3回：「新たな地域発見～刈谷で見つかる世界」 一食べて・知って・つながろうー
- 第4回：外国人ガイドが 食・文化・踊りを ご紹介「日帰り3カ国体験周遊」

◇ 平成24～25年度の課題であった外国人（中国、ブラジル、ベトナム）の参画企画が立案され、実施され、プロジェクトメンバーに参加してもよいという外国人の意思表示がなされた。

◇ 来年度の市民主体の自主実施への移行に備え、市民等による全体会議・分科会の進行、記録作成を実践できた。

- **課題** …「市民主体の自主実施への完全移行」「市内在住外国人の周知方法の確保」

⑤ 総括と展望

● 取り組み施策実施の有無

◇ 本プロジェクトに関わる取り組み施策のうち、取り組めたもの、取り組めていないものは、以下のとおりです。

取り組めたもの	取り組めていないもの
<ul style="list-style-type: none"> ・国際化・多文化共生の拠点をつくり最大限に活かす ・世界の状況や課題について知る機会をつくる ・地球市民意識を育てる機会をつくる ・様々な国の人や文化と出会える場・機会をつくる ・市民が身近にできる国際協力を広める ・働く人が地域や世界につながる機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民への偏見・差別をなくす ・企業の国際化・多文化共生への社会貢献を進める

● 全体総括と展望

◇ 各年度の成果と課題、取り組み施策実施の有無を踏まえた3年間の総括と展望は次のとおりです。

1. 多様なセクター協働・連携による講座の実施

多様なセクター（日本人市民、外国人市民、学校、学生、企業、NGO、JICA、刈谷市国際交流協会、行政など）がプロジェクトチームを作り、国際プラザを活用した国際化・多文化共生を進める講座をグローバル・カレッジとして13回企画・実施することができた。また、フェアトレード団体、WAFCA、畳屋、外国人市民などと連携した講座も実施できた。

2. 満足度の高い講座への市内外国人の参加促進

講座参加者へのアンケートでは、講座内容に対する満足度が高く、定員オーバーとなる講座もある。しかし、国際プラザの認知度がまだ低く、それに伴い市内在住の一般の外国人の参加者が比較的少なく、日本語教室や国際交流フェスタなどがらみで参加してもらっている状況である。国際化・多文化共生を進める魅力ある講座づくりとともに、市内在住外国人への周知方法の確保が継続的な課題となっている。

3. 多様な企画・運営アイデアの蓄積と自主運営化

3年間のグローバル・カレッジの企画・実施、課題の共有と継続的改善を通して、国際プラザを活用した多様な講座の企画・運営のアイデアが蓄積されてきた。今後は、行政の手が離れても継続・発展していけるよう企画立案や運営方法を標準化・共有化し、市民等による自主運営ができるようにしていくことが望まれる。

第5章

第2期重点協働プロジェクト

次の3年間、何を重点的に取り組むか

1 第2期重点協働プロジェクトの方向性

① 総括を踏まえた第2期の重点的な取り組み施策の提案

第2期重点協働プロジェクトを定めるにあたり、最新の外国人市民の居住状況、第1期の取り組み施策の実績および重点協働プロジェクトの総括を踏まえ、「さらに深める＝できていることを深め続けるべきもの」と「新たに始める＝できていないことに広げて始めるべきもの」という2つの視点で、推進委員会および市民等の意見を聴きました（詳細は資料編参照）。

その結果、プロジェクト化の方向として、以下のように整理しました。

第2期重点協働プロジェクトに向けた取り組み施策への投票結果

プロジェクト化の方向	取り組み施策	深める	始める	合計
モデル地域	地域 No. 1 地域に交流する場・機会をつくる	9	0	9票
	地域 No. 2 地域の情報を共有する	4	5	10票
	地域 No. 3 地域の活動を共にすすめる	9	0	9票
	地域 No. 5 地域に相談できる人をつくる	2	5	7票
	地域 No. 6 あいさつしあえるようにする	3	4	7票
モデル学区	教育 No. 2 子どもの学校生活をサポートする	7	0	7票
	教育 No. 3 子ども同士が認め合えるようにする	0	8	8票
	教育 No. 6 地域社会で子どもをサポートする	5	3	8票
ユニバーサルなまち	公共 No. 4 防災と災害時のサポートをすすめる	7	9	16票
	公共 No. 11 外国人も住みやすいまちを作りアピールする	2	5	8票
外国人市民の参画・互助	公共 No. 5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる	2	12	14票
	公共 No. 8 外国人市民の互助体制をつくる	0	7	7票
出会い・交流	公共 No. 6 様々な国の人や文化と出会える場・機会を作る	8	0	8票
企業の参画	企業 No. 1 企業の国際化・多文化共生の社会的貢献をすすめる	2	5	7票

② 計画の4つの目的に照らしての検討

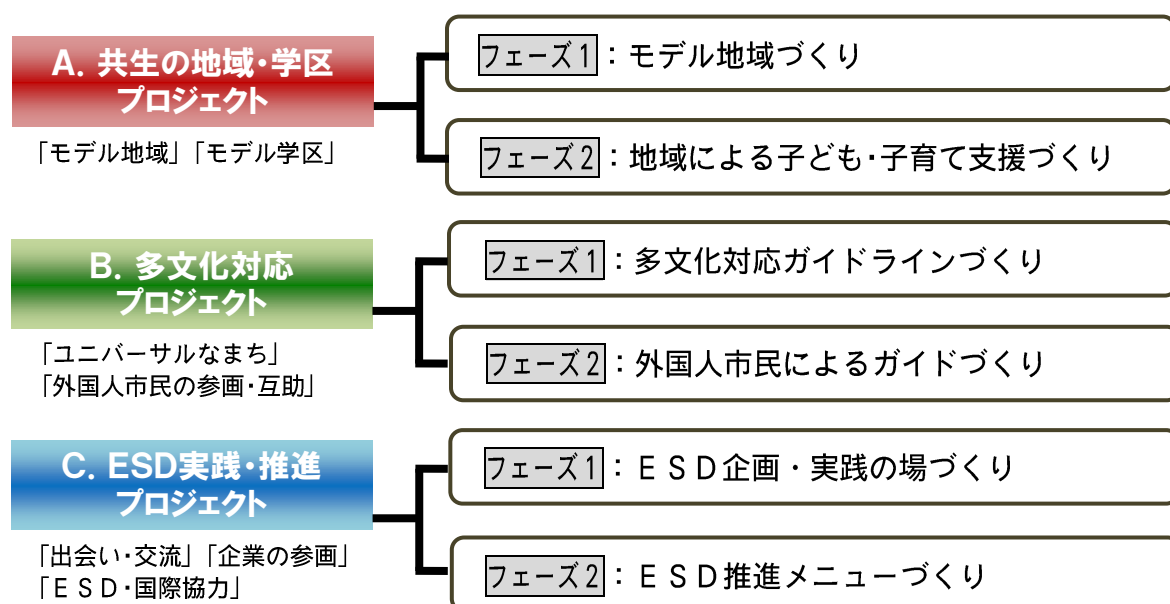
整理した6つの「プロジェクト化の方向」が、計画の4つの目的を実現することに寄与しているかどうか確認した結果、目的の1つ「地球規模の共生をすすめる」については強化する必要があると考え、プロジェクト化の方向として、「E S D・国際協力」を付け加えました。

計画の目的	プロジェクト化の方向
多様性を成長につなげる	「外国人市民の参画・互助」(外国人市民の視点導入) 「ユニバーサルなまち」(外国人市民の視点導入)
地球規模の共生をすすめる	「出会い・交流」(国際理解の推進) 「E S D・国際協力」(共生に向けた教育と行動)
すべての人の人権をまもる	「モデル地域」(地域での助け合い) 「モデル学区」(外国につながる子どもの人権) 「ユニバーサルなまち」(公共サービスにおける人権)
共存・協働のまちをつくる	「モデル地域」(地域での協働) ※その他のものも基本的には協働によるもの。

2 第2期重点協働プロジェクトの全体像

前項の意見・検討を踏まえ、第2期には、7つのプロジェクト化の方向を含んだ3つの重点協働プロジェクトを企画・実施します。

● 第2期重点協働プロジェクト ●



3 A. 共生の地域・学区プロジェクト

[フェーズ1] モデル地域づくり [H.27.28.29]

● 基本的考え方

- ◇ 第1期では、外国人市民の居住数が最も多い一ツ木町をモデル地域とし、地域住民の積極的な関わりで、ワールド・スマイル・ガーデンや交流イベントなど多様な取り組みが行われ、共生の地域づくりが進んできています。
- ◇ しかし、外国人市民の主体的な参画、多様な住民、セクターの参画など、「地域」のビジョンの実現には道半ばであり、第1期に引き続き取り組みを継続し、深めます。

● 主な取り組み内容

- ◇ 第1期の成果と課題を踏まえ、引き続き、「地域」の取り組み施策すべてを意識しつつ、以下の取り組み内容を重点的に検討し、関係主体と協働して実施します。

施策 No.	「地域」の取り組み内容
No.1	③ 子どもを介し、家族ぐるみで遊んだり、交流したりする機会をつくる
No.2	③ 外国人市民から情報を発信する機会をつくる
No.3	② 外国人市民を交え、新たな地域貢献活動を共に創り出す
No.4	② 地域の祭りなどで歌や踊りなど相互の文化を披露できる機会をつくる ④ 伝統的な歳事や季節の行事を共に楽しむ機会をつくる
No.5	① 外国人市民のニーズに対応できるコーディネーターを養成する ② 外国人市民と日本人市民が家族ぐるみの関係を育むしくみをつくる
No.6	① 地域におけるあいさつ運動をすすめる

● 関係主体

日本人市民、外国人市民、地域団体、地元企業、K I F A、愛知県国際交流協会、市

● 具体的取り組み(案)

ステップ1	◇ 平成27年度の活動を継続しつつ、外国人の参画について力点を置く (取り組み内容のうち、地域-No.2③、No.3②、No.5①②など)
ステップ2	◇ 地縁型テーマ団体による自主運営へ移行を図る ◇ (仮称) 地域における多文化共生事例&マニュアルを作成、他地域へ波及

[フェーズ2] 地域による子ども・子育て支援づくり [H.28.29 適宜]

● **基本的考え方**

- ◇ 外国につながる子どもの多くは、日本語教育、母語教育、学校生活や将来に対する支援が必要で、語学指導員、プレスクールなどを行っていますが、多様な国籍、個別の事情などに対応していくためには、学校だけでなく地域社会によるサポートが必要です。
- ◇ そのため、当該子どもが集中しているかりがね小学校、雁が音中学校をモデル学校（学区）として、学校、地域、市民ボランティアと協働して取り組みを進めます。

※ 外国につながる子ども：外国籍の子ども、親のどちらかが外国人で日本国籍を持っている子どもの両方を指す。

● **主な取り組み内容**

- ◇ 「教育の場」の取り組み施策における以下の取り組み内容を重点的に検討し、関係主体と協働して実施します。

施策 No.	「教育の場」の取り組み内容
No.2	<ul style="list-style-type: none"> ③ 学校と大学や市民ボランティアとの連携による取り組みを充実させる ④ 中学校卒業後の日本での進学、就職、自立についてのサポートを行う ⑤ 宗教などを背景とした食や習慣について理解や対応を行う
No.3	「子ども同士が、認め合えるようにする」のすべて
No.4	「子どもの保護者をサポートする」のすべて
No.5	④ 地域と大学や市民ボランティアとの連携による取り組みをすすめる

● **関係主体**

学校、外国人市民、市民活動団体（SSSなど）、社会福祉協議会、市

● **具体的取り組み(案)**

ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校・保育園、外国人保護者との関係づくり（ヒアリング、意見交換） ◇ 外国にルーツのある子どもの現状と課題の把握 →解決すべき課題の設定 (例) 日本語も母語も不十分なまま育つダブルリミテッド
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 関係主体間の連絡会議の発足 →課題を一つずつ解決するための取り組み立案と実施 (例) 様々な職業の先輩談、外国人による母文化紹介、高校生による日本文化紹介、多文化ライブラリーの開設

4 B. 多文化対応プロジェクト

[フェーズ1] 多文化対応ガイドラインづくり [H.27.28]

● 基本的考え方

- ◇ すべての市民は、公的なサービスを等しく受ける権利がありますが、外国人市民に対する対応が、関わる部署・事業によってまちまちとなっています。
- ◇ そのため外国人市民に対する必要水準以上サービスを確保できるガイドラインを作成し運用する仕組みを作ります。
- ◇ また、本市に来訪する外国人に対するサービスの在り方についても検討し、刈谷の魅力を発信できるようにします。

● 主な取り組み内容

- ◇ 「公共施設・機会」の取り組み施策における以下の取り組み内容を重点的に検討し、関係主体と協働して実施します。

施策 No.	「公共施設・機会」の取り組み内容
No.1	「公共サービスの外国人市民対応化をすすめる」のすべて
No.3	「外国人市民向けサービス・情報提供を充実させる」のすべて
No.4	「防災と災害時のサポートをすすめる」のすべて
No.11	① 外国人も住みたくなるユニバーサルなまちづくりをすすめる ② 刈谷の魅力を外国人にアピールする機会をつくる

● 関係主体

市関係課、外国人相談員、K I F A

● 具体的取り組み(案)

ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 庁内検討組織の立上げ、庁内外国人市民対応などの現状と課題の共有 ◇ 先進都市事例研究（外国人市民が多い都市の施策照会、視察、勉強会）
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各部署・事業における外国人市民対応のためのガイドラインの作成、運用 （例）個別の相談事項や課題を一般化して対応策を考える 転入外国人市民に対するウェルカムバスケット

[フェーズ2] 外国人市民によるガイドづくり [H.29]

● **基本的考え方**

- ◇ 当事者自身がより課題を理解しているという観点から、経験ある外国人が集まり、同郷の外国人のために、日本・刈谷での暮らしの常識・非常識、役立つ情報源情報、刈谷の魅力などについて、親しみやすい冊子やウェブを作成し、発信する機会を作ります。
- ◇ 現状を把握し為すことを通して、共生のまちづくりのリーダーとしての意識を育み、互助組織化などにつなげます。

● **主な取り組み内容**

- ◇ 「公共施設・機会」の取り組み施策における以下の取り組み内容を重点的に検討し、関係主体と協働して実施します。

施策 No.	「公共施設・機会」の取り組み内容
No.3	③ 外国人市民に届きやすい媒体・ネットによる情報提供のしくみをつくる
No.4	① 災害に関する情報を伝え、防災意識を高め、災害への備えを促す
No.5	② 外国人市民も交えたまちづくりの話しあいの場を設ける ③ 外国人市民のまちづくりコーディネーターを養成する
No.8	① 外国人市民の有志と困っている外国人市民とをつなげるしくみをつくる ② 外国人市民同士の互助体制づくりを支援する
No.11	② 刈谷の魅力を外国人にアピールする機会をつくる

● **関係主体**

外国人市民、市民活動団体、K I F A、市

● **具体的取り組み(案)**

ステップ1	(1年間で1か国、最初はフィリピン版) ◇ 主体は在住外国人数名(委嘱) + 同外国人支援団体(NPO、教会など) ◇ 月1回ペース6回程度の企画ミーティング(勉強会を含む) + 楽しみ会
ステップ2	◇ リーフレットは転入者や希望者に配付、必要に応じて改定 (例) 外国人のニーズに対応した市内マップづくり(外国人からの要望) 外国人市民が困っている人を助けアドバイスできるシステムづくり

5 C. ESD実践・推進プロジェクト

【フェーズ1】 ESD企画・実践の場づくり [H.27.28.29の第1四半期と3月]

● 基本的考え方

- ◇ 国際プラザの活用、多様なセクターの協働、ESD・国際協力の推進という点から、第1期の地球市民拠点プロジェクトとグローバル・カレッジは有効であったため、さらなるESDを推進する人材の発掘、活躍できる機会創出による多彩なイベントの孵化器として位置づけ、継続します。
- ◇ また、企業城下町刈谷の外国人社員、海外経験の長い日本人社員やその家族などの人材を、グローバル人材の育成に役立てられるような場としても位置付けます。

● 主な取り組み内容

- ◇ 「公共施設・機会」「企業・職場」「地球規模」の各取り組み施策における以下の取り組み内容を重点的に検討し、関係主体と協働して実施します。

施策 No. 「公共施設・機会」の取り組み内容

No.2 ⑤ 市民参画によるより良い拠点づくりをすすめる

No.5 ① 母国の文化紹介等まちづくりイベントを共に盛り上げる機会をつくる

施策 No. 「企業・職場」の取り組み内容

No.3 ① 外国人社員が地域と交流し、貢献する企業を増やす

施策 No. 「地球規模」の取り組み内容

No.1 ② 様々な場や機会に、世界の課題についてまなび考える機会をつくる

③ 海外に長期滞在した経験のある市民の知識・情報を活かす

No.3 「地球市民意識を育てる機会をつくる」のすべて

No.4 「市民が身近にできる国際協力を広める」のすべて

● 関係主体

日本人市民、外国人市民、学校、企業（職員）、K I F A、市民活動団体、市

● 具体的取り組み(案)

ステップ1	◇ 毎年度冒頭に、市民国際人を募集し、出会い・交流に加えESD・国際協力の視点を入れたグローバル・カレッジのチーム立ち上げ
ステップ2	◇ チーム単位で自主的に賛同者を募りつつ、イベントを企画し、自主的に年3つ程度のイベントを実施 →第1期のグローバル・カレッジ参照

[フェーズ2] ESD推進メニューづくり [H.27.28.29の第2~4 四半期]

● 基本的考え方

- ◇ 第1期の重点協働プロジェクトで実践されてきた講座やイベントの事例を一般化し、他のアクターが実践しやすいようにノウハウをESD推進メニューにまとめ、内外に発信することで、刈谷の取り組みをPRします。
- ◇ また、刈谷の資源を生かしたプログラムを開発し、学校教育や社会教育でESDを進めることに役立てます。

● 主な取り組み内容

- ◇ 「公共施設・機会」「企業・職場」「地球規模」の各取り組み施策における以下の取り組み内容を重点的に検討し、関係主体と協働して実施します。

施策 No. 「教育の場」の取り組み内容

- No.1 ② 生きた教材、海外で活躍した人を授業で活用できるようにする
- No.5 ② 違いを乗り越え関わる力を育むための参加型の国際理解教育を広げる

施策 No. 「企業・職場」の取り組み内容

- No.1 ② 生きた教材、海外で活躍した人の授業での活用を充実させる
- No.3 ② 違いを乗り越え関わる力を育むための参加型の国際理解教育を広げる

施策 No. 「地球規模」の取り組み内容

- No.1 ② 様々な場や機会に、世界の課題についてまなび考える機会をつくる
- ③ 海外に長期滞在した経験のある市民の知識・情報を活かす
- No.3 「地球市民意識を育てる機会をつくる」のすべて

● 関係主体

学校、企業（職員）、市民活動団体、市

● 具体的取り組み(案)

ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ESD推進メニューの構成・内容の検討 ◇ 刈谷の資源を生かし開発すべきプログラムの選定 (例) 企業人材が参画するグローバル人材育成講座 ◇ 第1期重点協働プロジェクトの講座・イベントの推進メニュー化
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 関係主体間によるプログラムの開発 ◇ 学校や国際プラザでの開発したプログラムの模擬実施 ◇ ESD推進メニューの内外へのアピール

Memo

1

刈谷市国際化・多文化共生推進委員会

① 刈谷市国際化・多文化共生推進計画策定委員会

■ 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 国際化・多文化共生社会の実現に向けて、刈谷市国際化・多文化共生推進計画を推進するに当たり、市民及び関係機関の意見を反映させるため、刈谷市国際化・多文化共生推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について意見を述べるものとする。

- (1) 刈谷市国際化・多文化共生推進計画の推進に関すること。
- (2) 刈谷市国際化・多文化共生推進計画の策定及び見直しに関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員13人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係機関を代表する者
- (3) 市内に住所を有し、通勤し、又は通学する18歳以上の者
- (4) 市の職員
- (5) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は委員の互選により定め、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となり、議事を整理する。

3 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

(資料提出等の協力)

第7条 委員会は、必要に応じて関係者に対し、出席を求めて意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他の協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、市民活動部市民協働課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、平成34年3月31日限り、その効力を失う。

■ 委員名簿

組織区分	所属	氏名
学識経験を有する者	愛知淑徳大学教授	榎田勝利
大学	国立大学法人愛知教育大学 教育創造開発機構運営課 課長	稻吉隆
地区代表者	一ツ木自治会 会長	石川弘之 (H25.3.31 迄)
		加藤清治
教育委員会	刈谷市教育委員会学校教育課 指導主事	尾出知子 (H25.3.31 迄)
		相羽孝彦 (H26.3.31 迄)
		河合哲也
愛知県国際交流協会	愛知県国際交流協会交流共生課 課長	栗木梨衣
刈谷市国際交流協会	刈谷市国際交流協会 常務理事兼事務局長	山岡正和 (H25.3.31 迄)
		山口富男
企業代表	株式会社豊田自動織機 人事部組織人事室 海外人事グループ グループ長	中川知之 (H26.12.31 迄)
	株式会社豊田自動織機 人事部海外人事室 管理グループ グループマネージャー	大見浩明
企業代表	株式会社ベルテック 取締役 部長	小池ソニア
認定 NPO 法人	認定特定非営利活動法人アジア車いす交流センター 事務局長	坂元邦晴 (H26.12.31 迄)
		番真一
市民委員		柴田幹代
市民委員		都築義孝
行政	刈谷市役所市民活動部 部長	近藤尚登 (H25.3.31 迄)
		犬塚俊治

2 第2期に重点的に実施すべきと考える取り組み施策 投票結果

場面	取り組み施策	委員会	一ツ木	拠点・学校	計	理由・意見
地域	1 地域に交流する場・機会をつくる 外日	3 (3/0)	6 (6/0)	0 (0/0)	9 (9/0)	<ul style="list-style-type: none"> …一ツ木地域の事例を他地域にも広めていく。 …ニーズの高さ。未参加者への機会の提供が進むとより良くなるのでは。 …外国人市民のコミュニティに日本人市民が参加できるような機会・場面をつくる仕組みを充実することが必要である。 …まず一ツ木町内から少しずつ取組を広げていくことが大切。第1期ではまだ十分とは言えない。活動自体を知っている町内の方は少ない。 …さらなる交流を深める。 …もともとコミュニケーションをとる。
	2 地域の情報を共有する 外日	2 (1/1)	7 (3/4)	1 (0/1)	10 (4/6)	<ul style="list-style-type: none"> …地域の情報を共有することで、外国人もその地域の一員であるという感覚を持つことができると思います。 ○…外国人(文化)の互助体制を整える機会を設ける(公共 No.8 を含む)。 ●…地域の情報を知らせる方法を精査。 ○…外国人の現状及び悩み・考え方をアンケート等で聞く。 ○…モデル地域での活動についてもっと大々的に広報してはどうか。例えば見学会や1年に一度大きなイベントを行ってはどうか。(B級グルメ大会のような)
	3 地域の活動を共にすすめる 外日	3 (3/0)	5 (5/0)	1 (1/0)	9 (9/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…とても良い施策なので、どんどん進めていきたいこと。 ●…企画の段階から外国人に加わっていただくことこそ、多文化共生の地域づくりであると思う。第2ステップとしては「支援」ではなく、「協働」に力を入れたい。 ●…他地域に広げる。一ツ木地区の活動の継続・拡大。 ●…自治体組織に加入する。 ●…体を動かす喜び、収穫の喜びを共有。 ●…地域の外国人と日本人がともにできる活動はとても大切だと思います。特に、ガーデンは、今までになく、珍しい取り組みだと思つので、もっと PR して広めてほしいです。地域の行事のひとつとして、小学校の子供たちが定期的に通ったり、収穫祭へ参加したりして、子供たちがもっと参加できるといいかも…。
	4 互いの文化に出会いまなぶ機会をつくる 日外	0 (0/0)	1 (1/0)	1 (1/0)	2 (2/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…地域でお互いの文化を知ることは多文化共生につながると思う。海外の文化を知る機会は学校でもあまりないので、新しい発見があり、楽しく学べると思う。また外国の方にもっと日本を好きになってもらいたい。
	5 地域に相談できる人をつくる 外	2 (1/1)	2 (0/2)	3 (1/2)	7 (2/5)	<ul style="list-style-type: none"> ●…日本人家庭への招待、家庭訪問。家庭での防災対策(備品、家具固定など)を具体的に見てもらい、相談に応じるなど。 ○…各地域が抱える問題などについて、外国人目線での意見を言える人がいると良い。 ●…地域に相談コーナーを設ける。 ○…イベントへの参加や共同企画することによって、外国人が孤立せずに住みやすい地域づくりを目指す。 ●…動き始めたワールデンの活動が続きますように。地域②とも関連する。 ○…ワールデンや地球市民プロジェクトでつながった人たちと良い関係を継続していくため。
	6 あいさつしあえるようにする 日外	2 (2/0)	5 (1/4)	0 (0/0)	7 (3/4)	<ul style="list-style-type: none"> ●…毎朝、あいさつ運動して回っているが、小・中学生はまだまだですね。 ●…ワールデンでの日常的な作業参加を通じて。 ○…勇気がいるけど人とながる最初の手段 ○…気軽にニックネームで呼び合えるような環境づくり。 ○…人はコミュニケーションで心から繋がる事ができるわけであるがまずは、常日頃から挨拶できることが大切。
教育の場	1 様々な国の人や文化にふれる機会をつくる 全	0 (0/0)	1 (1/0)	4 (4/0)	5 (5/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…今後も一般ボランティア、企業、行政、NPO、学校などの協働はより大切だと考える。学校としても国際理解教育や国際交流行事は進んでいるが、ESDの理念はまだ全校に浸透していない。ESDの理念や国際理解教育を全校に広めて行くためにも学校ESDプロジェクト出前授業は継続してほしい。 ●…刈谷北高校と国際交流協会が協働で行った、バレンタイン一揆のイベントは良かった。学校・行政・地域が協力できるような啓発イベントがあるとよい。また、個人的には刈谷北で交換留学の制度を整えていきたい。(できるかどうか分かりませんが…) ●…刈谷北高校で行われている国際やESDに関わる行事等において、発信をつねに行い、それに対するコメントをもらいながら次回への課題としていく。 ●…様々な国の人や文化に触れてみるとそれぞれ感じ方が異なる。その異なった感情を知り、共有できる場を設けることでさらに視野が広がると思う。
	2 子どもの学校生活をサポートする 外	1 (1/0)	2 (2/0)	4 (2/0)	7 (7/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…現場では、授業・日本人の子どもで手一杯。SSSの理解度、協力姿勢が低い。 ●…『SSS』の活動をもっと支援できるとよい。また、日本語が十分でない外国籍児童の進路に関する情報提供ができたり、そういう専門の相談役がいるととてもいいと思う。(日本に来て間もないけど、高校進学したい！という外国籍児童の相談あり。しかし、きょうかいではなかなか対応できないので、外国人の進路相談員がいるといい。)進路説明会などでは、様々な職業に就いた先輩の話をもっと聞けたり、外国人日本人関係なく多種多様な職業の大人の話を聞く機会を作り、将来が描ける機会を作るといいのではないかな。 ●…刈谷北も入れたら入っていききたい…保育・教育方面に進むような、子供の好きな生徒もいるので、また、子供達に向けての日本文化の紹介などもやらせてみたい。 ●…広域的に、日本語指導教員の勉強会や研究会が実施できるとよい。みんな色々な葛藤を抱えながら対応している話を聞くので、課題を共有して解決して行けたらよいと思う。 ●…活動し始めたSSSの市民活動が、教育委員会に認知され、相互に支援しあえる関係築き、上手に機能するようになりますように。

場面	取り組み施策	委員会	一ツ木	拠点・学校	計	理由・意見
教育の場	3 子ども同士が、認めあえるようにする 外日	4 (0/4)	2 (0/2)	2 (0/2)	8 (0/8)	<ul style="list-style-type: none"> ○…良き友人をより多く持ち、コミュニケーションを発揮していくようにする。子どもと大人が一体となって、楽しめるイベント等を地域バランスを考えて実施していく。 ○…何ができるのか学んでいきたい。 ○…教育現場の教員、子どもたち、保護者の意見、対応についての情報把握が必要。 ○…教育現場での取り組み不足、理解不足。 ○…子どもが安心して暮らせる街、その笑顔を見て親も安心すると思うので。 ○…ネイティブに協力してもらい、小中学校で(外国人児童の出身地の)文化紹介をするようなシステムができると良い。 ○…子どもの頃の記憶は大人になっても残っているので、子どもの教育を小学校くらいからサポートできれば良いと思う。
	4 子どもの保護者をサポートする 外	3 (1/2)	1 (0/1)	0 (0/0)	4 (1/3)	<ul style="list-style-type: none"> ●…外国人の集住地域ではない本市における取り組みの困難さの原因と探り、対処していく。 ○…教育は親の理解も必須。 ○…特に、母語、母文化を学ぶ機会づくり。「外国にルーツがあること」が一つの強みになれば、自信を持って地域の一人として暮らしていけるのではないかと思うし、相乗効果として、日本語のコミュニケーションも高まると思う。
	5 地域や世界の課題を主体的に考える機会をつくる 全	1 (1/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	1 (1/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…地域が抱える課題は同時に、地球規模の課題でもあることを理解し、アクションに取り組むきっかけづくり。
	6 地域社会で子どもをサポートする 外日	2 (1/1)	4 (2/2)	2 (2/0)	8 (5/3)	<ul style="list-style-type: none"> ●…支援を必要とする場面について、具体的に把握し、サポート体制を整える。 ○…「子ども」はいろいろな市民にとって、モチベーションになると思うし、持続可能な地域づくりになる。 ●…地域全体でサポートする。 ●…日本で育つ子ども達が必要な教育を受けて、きちんと働けるようにしていくことが必要だから。周辺市町にも外国人児童は多いのだから、様々なレベルの日本語教室を、広域的に連携して実施できるとよいと思う。 ●…活動し始めた SSS の市民活動が、教育委員会に認知され、相互に支援しあえる関係築き、上手に機能するようになりますように。
公共施設・機会	1 公共サービスの外国人市民対応化をすすめる 外	1 (0/1)	1 (0/1)	1 (0/1)	3 (0/3)	<ul style="list-style-type: none"> ○…生活に必要な情報を外国語ができない方にも提供できるように。 ○…多言語による情報提供をもっと充実できたいと思います。各言語の通訳の人の充実、リスト化できるといい。最近特に、外国籍の方たちから協会へ問い合わせがあったのは、言葉が通じる病院があるかどうか。今すぐ病院へ行きたいけど、言葉が通じなくて困るので通訳はいますか。など…医療通訳に対応できる人の対応化できたらいいです。
	2 国際化・多文化共生の拠点をづくり、最大限に活かす 全	1 (1/0)	0 (0/0)	1 (1/0)	2 (2/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…多文化共生に対する意識の高さを伺えるような人材が多いので、協力できることについてまとめる。 ●…地球市民プロジェクトの実行委員会に外国人市民に参加してもらい、彼らの思いやニーズを活かして一緒に協力してイベントを考えていきたい。
	3 外国人向け情報・サービスを充実させる 外	1 (1/0)	1 (1/0)	0 (0/0)	2 (2/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…医療・災害対策などは生命に関わる問題であり、日本語能力が十分でない人へのケアは最優先の課題。
	4 防災と災害時のサポートをすすめる 外	6 (3/3)	5 (3/2)	5 (1/4)	16 (7/9)	<ul style="list-style-type: none"> ●…防災講座の機会を増やすとともに、多言語による必要な情報共有の仕組みを確立することが求められる。 ●…外国籍住民に限らず、安心して暮らすためには大切なことだと思う。 ●…災害時における自助と共助の重要性を理解してもらう。 ○…大地震への備えは最優先。災害発生時に多言語による必要な情報共有の仕組み。 ○…防災ボランティア活動を他地域にも広める。その際、外国人対応についても考慮する。 ○…在住している外国人にとっては、緊急時における対応が不可欠。 ○…外国籍住民の、防災に対する意識の向上や備えなど、外国の人に周知を行っていく。現在、協会では防災ガイド(中・英・ポ・タ・やさしい日本語)を作成中。今後の防災講座の中で使用/配布していく予定です。また、現在行っている防災講座だけでなく、体を動かして楽しく学べる防災講座(防災うんどう会)などもしたい…と思っています…。 ○…地震や風水害に対する防災知識の向上と地域・市民の連携等について学ぶ。 ○…避難所に災害時に掲示する多言語パネルの作成と配付。災害時のボランティア・通訳ボランティアの養成と訓練の実施。本来は、外国人住民と日本人市民と一緒に防災訓練をして、外国人住民を災害時要援護者ではなく、災害時に活躍してもらえ人になってもらいたい中で、次のステップに行けるとよいと思う。 ○…外国人の居住している地域の町内会の避難訓練等に参加してもらい、実際災害が起こったときに共に助け合うシステムを作る。 ○…地域防災訓練に外国人の参加。野田地区での活動が他の地区へ発展できるように願って。

場面	取り組み施策	委員会	一ツ木	拠点・学校	計	理由・意見
公共施設・機会	5 外国人市民のまちづくりへの参画をすすめる 外日	2 (0/2)	6 (2/4)	6 (0/6)	14 (2/12)	<ul style="list-style-type: none"> ○…外国人による困難さを場面毎に知り、どう解決してきたのか掴んで、これからの活動に生かせるようにする。 ○…日本人も外国人も主体的にまちづくりに参画するようになれば、自ずと多文化共生の地域になると思う。 ●…地域の一人という連帯感、居場所間を感じてもらえることが心からのつながりを育てていくと思う。 ○…外国人主体の企画は大切なので、今後も進めていった方がいいと思います。グローバルカレッジの4回目企画は外国人主体企画なので、このような企画が広まればいいな～と思います。ネイティブの人の参加をもっと促していけるようPRできるといいと思います。特に刈谷は企業のまちなので、企業と連携して会社から派遣してもらおうとか、何かしらの外国人の情報をもらえたりして、協力を得られればより協働的だし、刈谷の特性もでるのでは…。 ○…道路整備とか、行政の色々な施策に係ってもらい、誰もが住みよい街になるように意見をもらうようにする。 ○…現状では外国人市民のまちづくりへの参画は少ない気がする。外国人が主役となるイベントをもっと充実させるといい。ワールド・キッチンはとても良い催しと考える。規模をもっと拡大できるといい。アイリスの調理室の利用も考えられるのではないかな。 ○…国際交流や多文化共生視点のイベントだけではなく、わんさか祭りや福祉・健康フェスティバル、刈谷産業まつりなど市が主催するイベントの広報を多言語化したり、ステージでダンスを披露するなど外国人住民も参加できるといい。関係課以外の職員の方や、国際交流や多文化共生に興味関心がない人にも触れあってもらうきっかけにできるといいと思うから。 ○…異国で孤立しがちな外国人を主体とすることにより、彼ら彼女らの活躍の場を作り出し、生きがいを感じてくれるような場を提供する。 ●…刈谷市の多文化共生の取り組みを、外国人市民はもちろん刈谷市民にもっと知ってもらい参加を促していきたい。
	6 様々な国の人や文化と出会う場・機会をつくる 日	1 (1/0)	1 (1/0)	6 (6/0)	8 (8/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…まずは出会う場、知り合う場、学び合う場、活動・協力する場が必要である。 ●…中々海外に行けるチャンスがないので、常識について学べる機会があればと思う。日本の常識が海外ではどのようになっているのか？また、逆に海外の常識が日本ではどうか？とか…。 ●…外国人の参画を促すうえでも、どれも大切な企画。今後も充実を図りたい。 ●…ナマステインディアやワールド・キッチンなど、できれば高校生にも参加させたいものは多い。生徒は、ネイティブと交流したがっている。そういった取り組みをもっと充実させてもらえると嬉しい。 ●…外国の知られざる文化、風習等を知ることにより、その国の興味、関心を持ち、お互いを理解し合い、異文化共生へと繋いでいく。 ●…刈谷市だけではなく、安城市、知立市、岡崎市等と一緒に日本人も外国人も楽しく参加できるイベントが開催できたらと思う。
	7 日本語学習をすすめる 外	3 (3/0)	1 (1/0)	0 (0/0)	4 (4/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…ニーズの高さ。実際にレベル向上しているのか、対策が効いているのかの把握が必要。 ●…日本を知る、日本人と交流する第一歩。市内各地域での教室開催。日本語を学びたい外国人の増。 ●…外国人すべての言語に対応するのは限界があるので、外国人が少しでも日本語を覚えることができるよう進めるべき。
	8 外国人市民の互助体制をつくる 外	5 (0/5)	1 (0/1)	1 (0/1)	7 (0/7)	<ul style="list-style-type: none"> ○…国際化・多文化共生のために、外国人市民同士の互助体制づくりを支援することが必要である。 ○…より多くの在住する外国人の町よりも、より少ない町に自然にふれあいを求めて努力する体制づくりも必要。 ○…企業で働く外国人同士、そのサポートの共有はアリかも(企業No.2のコラボになるかもと思う)。 ○…状況把握の不足。災害対応。日本人との交流の近道。企業(団地、アパート)の中の外国人コミュニティの活用。 ○…外国人市民が困っている人を助けたり、アドバイスできるようなシステムづくり。 ○…日本人市民の互助体制をもっと充実させることも必要だが、外国人を蚊帳の外においては刈谷市として不十分だと思う。 ○…ネイティブ同士で情報交換ができるようなネット掲示板などを整備しては？(既にあったらごめんなさい)
	9 日本や刈谷市の文化等を知る機会をつくる 外	0 (0/0)	3 (3/0)	0 (0/0)	3 (3/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…日本を、刈谷を知ってもらい、第2又は第3の故郷と思ってもらえるようになれば仲間意識も高まると思う。
	10 外国人市民への偏見・差別をなくす 日	0 (0/0)	3 (1/2)	3 (0/3)	6 (1/5)	<ul style="list-style-type: none"> ○…気軽に声をかけあえる環境。 ○…日本人や外国人それぞれにとって相手を「怖い」「嫌だ」という点などの本音アンケートを実施し、互いに改善していくところを模索し、差別・偏見を解消する。我慢してはいない関係はできないので、格好つけずにアンケートに答えてもらうことが重要。 ○…国際化・多文化共生推進の活動の外部発信。事業の実施も重要だが、その活動の外部発信がとても重要。 ○…個別の相談事項を一般化して考えられるものへ発展させ、日本人、外国人がともに課題を考える。
	11 外国人も住みやすいまちをつくり、アピールする 外	1 (1/0)	4 (1/3)	3 (0/3)	8 (2/6)	<ul style="list-style-type: none"> ●…どこの町でも高齢者など社会的弱者が安心・安全な生活が送れるよう、また社会参加が困難な人々の対策が必要。 ●…行政の街づくり委員会に入ってもらう外国人目線の意見を出してもらう。 ○…住みやすいまちだと外国人の間にロコミで広がるようになれば、国際色豊かになり、まちの活性化にもつながると思う。 ○…外国人向けサービスを日本人も外国人も共に知ること、身近な人へ紹介していく。

場面	取り組み施策	委員会	一ツ木	拠点・学校	計	理由・意見
企業・職場	1 企業の国際化・多文化共生の社会的貢献をすすめる 全他	4 (2/2)	1 (0/1)	2 (0/2)	7 (2/5)	<ul style="list-style-type: none"> ●…国際化・多文化共生は、企業活動と密接な関係にあり、企業の協力が不可欠である。そこで、企業の社会貢献活動に対する表彰などの仕組みづくりが必要である。 ●…WAFCAが表彰されたらうれしい。もっともっとやる気がアップ。様々な応援者を得て、刈谷の国際化に貢献できそう。デンソーとも連携できる。 ○…社会貢献活動はしているが、「多文化共生」をテーマにした活動はほとんどなされていない。 ○…公共、一般市民と企業活動とのコラボ。企業で活動していることの広報。 ○…個別の企業について社会貢献をどんどん紹介する。国際プラザでの展示やグローバルレターなどで広報する。名古屋で行われているワールドコラボフェスタの刈谷版を計画してはどうか。グローバルカレッジと企業のCSR活動をコラボさせるのも手か。 ○…企業の国際・多文化共生の活動をいかにして行政がバックアップできるか。企業への後方支援につなげたい。
	2 外国人社員に対するサポートを充実させる 外	3 (0/3)	0 (0/0)	2 (0/2)	5 (0/5)	<ul style="list-style-type: none"> ○…大企業の取り組みを中小企業にも波及できる仕組みの充実を図り、良い事例を集めて、他の企業に応用できるようにする仕組みづくりが必要である。 ○…初めは、職場から仲良い友人を作って、わからない人がないように、体験学習と習慣と言語を。親などを仲間に入れて、徐々に充実を図っていく。 ○…どこまでオープンにできるか不明だが、大企業のノウハウ、施策を中小企業へ波及させれば、刈谷の企業全体の底上げになると思う。サポート体制は大切。 ○…企業に相談できないようなものを扱うSOSダイヤル(もしくはメールアドレス)などをつくっては？ ○…外国人社員の労働環境調査。ヒアリング等をしなが、会社側が工夫していること、業務内容などを調査し、外国人社員の実態を調べてみるとよいと思う。実際、企業に対してできることは限られているけれど、思いのほか会社が工夫していたり、重要な役割を担っている外国人社員がいるかもしれないと思うので、ぜひそれをPRできるとよいと思う。
	3 働く人が地域や世界につながる機会をつくる 全	0 (0/0)	3 (3/0)	0 (0/0)	3 (3/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…まだまだ馴染んでいない。もっと場数を増やす。
	4 外国人市民の安定した就業をサポートする 外	0 (0/0)	2 (1/1)	0 (0/0)	2 (1/1)	<ul style="list-style-type: none"> ●…働くことによって税金を納めることが日本に溶け込める第1歩になると思うので、安心して働ける環境を提供する必要がある。
	5 多様性を活かした人権尊重の職場づくりをすすめる 外日	2 (0/2)	0 (0/0)	1 (0/1)	3 (0/3)	<ul style="list-style-type: none"> ○…社員が先入観や偏見を持たず、多様性を受け入れることが求められるため、公正な人事を進める企業を増やす仕組みづくりが必要である。 ○…外国籍の外国人を受け入れる企業では、外国人従業員の宗教上の制限などが働くうえでの不利にならないような職場づくりが必要になってくると思います。 ○…日本人はもちろん、外国人にとって何がハラスメントになるのかを聞き取り調査し、雇用する側・される側双方が知ることができるようにする。雇用される側が我慢しなければならないことか、声を上げれば契約関係を解消せずに改善してもらえることなのかを相談できるようにする気軽な機関を用意する。(後半は4に入りますね。)
地球規模	1 世界の状況や課題について知る機会をつくる 全	0 (0/0)	0 (0/0)	2 (2/0)	2 (2/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…現在、世界中で起きている事件や事故、あるいは環境問題等地球規模の課題について学んだりすること。 ●…世界各国、そして地球規模で起こっている様々な問題を知ることにより、同じ人類として、同じ地球上で生活する立場として問題意識を高めて行く。
	2 人どうしの国際交流をすすめる 全	1 (1/0)	1 (1/0)	2 (2/0)	4 (4/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…人どうしの国際交流は、共生の基本だと思います。 ●…今年の国際交流フェスタは入場制限も出たそう。10月くらいに駅前広場やミササガパークなどのもう少し大きな会場で、もう少し大規模にやってはどうか。一見さんも寄りやすいように…。 ●…刈谷北高校はこれから多くの諸外国に姉妹校を広げていきます。そこでホームステイの受け入れは学校だけでは困難となるため、地域でも受け入れを担ってもらえると助かります。その準備として毎年、受け入れ可能な意思表示をしてもらえるものがあると助かります。
	3 地球市民意識を育てる機会をつくる 全	1 (1/0)	0 (0/0)	1 (1/0)	2 (2/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…様々な場面で、多様な方たちに地球のことを考えてもらう機会をどんどん増やしたい。地球のことを考えるようになれば、地域のことも考えるようになるのでは。 ●…先回のバレンタイン一揆上映のような企画を継続させたい。映画上映(ex.「世界の果ての通学路」)、「僕らは世界を変えられない、but…」やコンサート(地球のステージ)を開いてみたい。また、自らアイデアを発信するTEDxKariyaを計画してはどうか。

場面	取り組み施策	委員会	一ツ木	拠点・学校	計	理由・意見
地球規模	4 市民が身近にできる国際協力を広める 全	0 (0/0)	0 (0/0)	5 (5/0)	5 (5/0)	<ul style="list-style-type: none"> ●…「バレンタイン一揆」のような、多文化映画をもっと上映できたらいいと思います。特に夏休みなどを利用して、中高校生、そして市民にPRし、映画上映&講演会の開催。国際協力やボランティアなど、ちょっとした気づきや発見を映画から感じてもらえるようなもの。プラザでフェアトレードの紹介・販売がもっと充実できたらいいかも。 ●…最低年に一度は、地球規模の課題となる映画の上映をしていくといいと思います。そこからいろいろなワークやイベントへの参加が期待できます。単発でなく、「考える映画ウィーク」みたいなものでもよいと思います。 ●…「地球規模」の項目1で得た問題意識を身近で簡単に解決できる方法を理解して、それを実践して行く意識をまずは狭い地域(刈谷)から発信して、個人個人に浸透させて広範囲に広げて行く。個人的には、毎年5月に名古屋で開催されている「世界フェアトレードデーなごや」の刈谷版の開催実践を熱望している。 ●…お金と時間に余裕がある人がやる国際協力ではなく、誰でも気軽に参加でき、遊びの中に国際協力が含まれているようなイベントが出来たらいいと思う。 ●…地域や世界の課題を知ると同時に、身近でできる国際協力を広めたり、行動したりしていく。
	5 学び高めあう都市間交流をすすめる 他	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	
	6 市や企業による国際協力をすすめる 他	2 (2/0)	0 (0/0)	2 (0/2)	4 (2/2)	<ul style="list-style-type: none"> ●…イベントで外国人を含めた内容でもよいが、防災などで地域のマンションから出てこない人が多い。外国人もさることながら日本人も平等に参加できる職場を作ることも重要です。 ●…デンソーの海外拠点、WAFCAの支部組織を活用してもらえればと思う。 ○…環境問題や児童労働、雇用問題等、世界各国、地球規模での問題やフェアトレード等の解決策を市や企業とコラボして発信して行く。特に刈谷は大企業が多く、それらとコラボすれば大きな効果が期待できる。 ○…日本では企業による国際協力はまだまだ浸透していないと感じる。力を入れる必要があると思う。

<備考> 達成度 = 「高」(濃い網掛け・白抜き文字)…取り組み施策に対して内容・方向的に十分行われているもの。必ずしも量的質的に十分とは限らない。この方向で進めていけば目標に到達できると考えるもの。
「中」(薄い網掛け・黒文字)…取り組み施策に対して内容・方向的に一部行われているもの。目標到達まで、まだ実施すべき施策があると考えられるもの。
「低・不明」(網掛けなし・黒文字)…取り組み施策が、ほとんど行われていないもの。または、各場での取り組みが不明であるもの。目標到達のためには、実態調査や新規施策の実施が必要。

(●/○)の前半の数字は「さらに深める」できていることを、深め、続けることが良いとされた取り組み施策の投票数、後半の数字は「新たに始める」できていないことに広げて、始めることが良いとされた取り組み施策の投票数一人につき、「さらに深める」3票、「新たに始める」3票ずつ投票した。

投票者数は、委員会=10人、一ツ木=12人、拠点・学校=10人。

刈谷市国際化・多文化共生推進計画 第1期報告書

平成27年（2015年）3月

発行 刈谷市
編集 市民活動部 市民協働課
〒448-8501 刈谷市東陽町1丁目1番地
TEL：0566-95-0002
FAX：0566-27-9652
URL：http://www.city.kariya.lg.jp
協力 特定非営利活動法人 N I E D ・国際理解教育センター

